

日本消防



- 全国消防大会・第65回日本消防協会定例表彰式
- 日本消防協会理事会・代議員会を開催



3
2013

□ 絵 全国消防大会 第65回日本消防協会定例表彰式 H25.2.26 (火) ニッショーホール
日本消防協会理事会・代議員会を開催 H24.2.26 (火) 日本消防会館

巻頭言「消防団のより一層の充実をめざして」	……………	栃木県消防協会 会長 伊澤 幸一	…… 1
日消の動き「消防団120年」	……………	(財)日本消防協会 会長 秋本 敏文	…… 2
全国消防大会 第65回日本消防協会定例表彰式を挙	……………	平成25年2月26日(火) 財団法人 日本消防協会	…… 3
財団法人日本消防協会及び全日本消防人共済会の役員会議の開催	……………	財団法人 日本消防協会	…… 18
第12回消防団幹部候補中央特別研修結果について	……………	(財)日本消防協会	…… 21
東西南北(大分県)「市民が安全で、安心して暮らせるまちづくり」	……………	杵築市消防団 団長 藤原 勇郎	…… 24
東西南北(岐阜県)「地域に密着した活動と安全・安心のまちづくり」	……………	輪之内町消防団 団長 森島 徹也	…… 26
東西南北(高知県)「東日本大震災の教訓を生かす」	……………	香南市吉川消防団 団長 中元 則夫	…… 28
シンフォニー(山形県)「予防消防」	……………	舟形町女性消防団 予防班 班長 曾根田 真利子	…… 30
少年消防クラブ指導者研修会を開催	……………	少年消防クラブ活性化推進会議	…… 32
『災害には油断は禁物』～ハリケーン・サンディで感じたこと～	……………	(財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 今川 勝之	…… 35
都道府県消防協会事務局長会議の開催と第21回全国女性消防操法大会の抽選会を実施	……………	財団法人 日本消防協会	…… 39
第28回中国消防事情調査について	……………	(財)日本消防協会	…… 40
消防研究センター等の一般公開のお知らせ	……………	消防研究センター	…… 43
うちの名物団員	……………		…… 44
消防団の広場(茨城県)「うるおいのある安全・安心なまち」	……………	小美玉市消防団 団長 長島 正文	…… 46

編集後記

表紙写真説明

「全国でも珍しいサンドイッチ型城下町」

江戸時代、譜代大名能見松平家が治めたこの地は、南北の高台にある二つの武家屋敷が商家を挟む全国でも珍しい「サンドイッチ型城下町」として知られ、連日多くの観光客が訪れています。中でも、酔屋の坂(写真手前)と志保屋の坂(奥)は当時の面影をよく残し、時代劇の撮影が行われることもあります。

(大分県杵築市)

全国消防大会 第65回日本消防協会定例表彰式

平成25年2月26日（火）

ニッショーホール



日本消防協会理事会・代議員会を開催

平成24年2月26日（火） 日本消防会館



「消防団のより一層の充実をめざして」

栃木県消防協会 会長 伊澤 幸一



私が住む栃木県は、関東平野の北部に位置する内陸県で、首都東京から60kmから160kmの位置にあります。広さは、約6408km²で関東地方の中で最も広大な県であり、緑なす山々と広い平地をもち、日光国立公園やラムサール条約に登録されている奥日光の湿原と渡良瀬遊水地など、豊かな自然に恵まれております。更に、世界遺産に登録された日光の二社一寺や、日本最古の総合大学といわれる足利学校、蔵の街とちぎなど、深い歴史と文化を伝える数々の文物を有するとともに、東北新幹線や、東北自動車道や北関東自動車道など東西南北を結ぶ高速交通網にも恵まれた、大変住みよい県であります。

また、本県には、現在、32消防団があり、平成24年10月1日現在で15,042人の消防団員が活動しております。消防団員数につきましては、本県においても全国的な傾向と同じく減少傾向が続いており、例えば平成23年4月1日と10年前の平成13年4月1日とを比較すると、消防団員数は15,641人から15,022人へと619人の減少、平均年齢は33.3歳から35.9歳へと2.6歳、引き上がってきており、消防団の魅力アップと消防団員の確保対策が重要な課題となっております。

こうした中、平成23年3月11日午後2時46分頃、東日本大震災が発生いたしました。かつて経験したことのない大地震により、本県でも、宇都宮市、真岡市、大田原市など5市町で震度6強、全市町で震度5弱以上を観測するなど、大きな揺れに見舞われ、4名の尊い命が失われたほか、134名の方々が負傷し、74,000棟を超える住家が損壊するなど、甚大な被害を被りました。また、最大で567,925世帯が停電し、避難勧告も5市3町13地区の158世帯、472人に出され、新幹線乗客などの帰宅困難者を含む避難者は、3月12日には、一時9,530名にも達したところであります。

更に、平成24年に入り、ゴールデンウィークも最後となる5月6日には、本県東南部の芳賀地域において、竜巻が発生し、850棟を超える建物が破損するなどの大きな被害が発生いたしました。これまで、本県は、比較的災害が少ない県と言われてきましたが、災害がいつどこで起きてもおかしくないことを改めて実感したところであります。

このように、東日本大震災や本県東南部を襲った竜巻は、県内各地に大きな被害をもたらしましたが、県内の各消防団は、自らが被災をした消防団員が数多くいる中、それぞれの地域において、被害状況の調査や、独居老人等の安否確認、避難誘導、人命救助活動、危険箇所の排除、給水活動、火災予防広報等、災害応急

対策活動や復旧活動に全力で取り組んでまいりました。しかしながら、一方で、特に東日本大震災においては、県内全域で広範囲に停電が発生して、固定電話が不通となる中、携帯電話もつながりにくくなり、通信手段が確保できないなど、様々な課題が浮き彫りになってきたこともまた事実であります。

これらの未曾有の大災害を契機として、現在、栃木県では、《災害に強いとちぎづくり》に県民総ぐるみで取り組んでいるところであります。この《災害に強いとちぎづくり》を進めていく上で、私は、特に、次の2つの観点を大切にしていきたいと考えております。まず第1に、《住民の命を守る》ということであり、今後は、戦後最大の犠牲者を出した東日本大震災の教訓を踏まえ、まずもって《住民の命を守る》ことを最優先として、常に念頭に置きながら、避難誘導、災害救助など応急対策を行っていく必要があります。

第2に、《自助、互助・共助と公助による支え合い》であります。大規模災害等に迅速・的確に対応していくため、住民一人ひとりが自分の身は自分で守る「自助」と、地域住民がお互いに助け合う「互助」、ボランティア、NPO、企業等が支援する「共助」が相補って協力していく体制を整備していくことが大切であります。

現在、県内の各消防団におきましても、東日本大震災や竜巻被害等を踏まえ、大規模災害等に備えた様々な取組みが進められております。真岡市消防団では、「地震災害対応マニュアル」を策定し、危険箇所の把握や、非常配備、情報連絡体制の整備、具体的な役割分担の明確化等を行っています。また、地域の自治会等との連携を強化しようとしている消防団や、高齢者の見守り活動に取り組もうとしている女性消防団もあります。

今回の大災害は、地域の防災体制の充実・強化の重要性を認識させ、地域防災の要としての消防団の果たす役割の大切さを改めて痛感しているところであります。また、一方で、消防団員の減少傾向が続いており、消防団の魅力アップや、評価の向上に努めていく必要があることも事実であります。本県では、現在、県民総ぐるみで《災害に強いとちぎづくり》が進められていますが、県消防協会といたしましても、消防団がその果たすべき役割を確実に果たすことができるよう、東日本大震災等を契機に県内各地に進められている消防団等の取組みを促進し、消防団の充実・強化に向け、着実に、また息の長い活動を進めていきたいと、決意を新たにしているところであります。

消 防 団 120 年

(勳)日本消防協会 会長 秋本 敏文

平成25年は自治体消防制度65周年の年ですので、従来の例から、その記念事業を行うこととなるのですが、これにプラスして、というより、もっと正面に消防団120年を打ち出すこととしました。勿論、第2次大戦後、新たに自治体消防として我が国の消防が再スタートしたことの意義は大きいのですが、今日の日本消防が、全国にわたる常備消防と消防団の両立という、他に例を見ない世界最高の消防体制をもつに至ったのは、その前からの100年に及ぶ消防の取り組み、諸先輩のご努力の歴史があればこそと思われまふ。現在の体制が確立したのは、せいぜいここ30~40年で、その前は、全国の殆んど地域は、消防団だけが地域の消防を担っていました。その体制があればこそ、スムーズな常備化が実現できたと思います。このことにもっと注目したいのです。

その消防団、前身は消防組といましたが、その元祖は、江戸時代、大岡越前守江戸南町奉行の時の町火消だとされています。しかし、これが全国的に統一された姿で普及することになったのは、明治27年の消防組規則からです。消防組は県知事が設けることにして、その運営経費は市町村が負担するという、今考えると変則的な形なのですが、やはり、発足当時、市町村が財政負担に耐えられないので、発足延期を願い出るということもあったようです。ですが、これが全国的に次々と普及するようになったのは、自分たちの地域は自分たちが守るといふ消防の原点への思いが共有されていたからでしょう。それから数えて、平成25年は満119年という消防にとっては大変ご縁の深い数字の年になります。120年目を迎えるのです。そこで、打ち出しとしては、消防団120年ということにしました。この間の歩みは決して平坦なものではありません。現在に比べれば、はるかに劣悪な装備のもとで消火活動を行ったり、第2次大戦中は警防団に改組されて我が国防空体制の重要な一翼を担ったりしました。

日本消防協会ではこのような消防団120年の歴史を、まずDVD映像「自ら守る！消防団120年」として作成して全国に配布しましたが、今回、「消防団120年史」という書物を作成しました。このような消防団を中心としたコンパクトな歴史の書物は初めてだと思います。そして、これをご覧頂くと、これまでの制度の変遷、各地での取り組みの様子がわかり、こうした歴史のうえに今日の日本消防があることがよくわかります。

11月の東京ドームでの記念大会では、この消防発展史を短時間のうちに実感して頂けるように、100年前の腕用ポンプによる放水、現在の可搬ポンプの少年たちによる操作などを行います。さらに救助活動などもご覧頂き、楽しいイベントも加え、これからの消防の一層の発展をめざす思いを共有する機会にしたいと思っています。どうぞお楽しみに。

全国消防大会 第65回日本消防協会定例表彰式を挙

平成25年2月26日（火） 財団法人 日本消防協会

平成25年2月26日（火）日本消防会館ニッショーホールにて、全国消防大会・第65回日本消防協会定例表彰式が挙行されました。

第1部の表彰式には、総務大臣（代理 岡崎浩巳消防庁長官）、古屋防災担当大臣をはじめとする来賓の方々を含む約500名の方々をご出席されました。式は、秋田副会長の開式の辞で始まり、国歌斉唱、消防殉職者への黙祷、日本消防協会会長の式辞と進み、特別表彰「まとい」、特別功労章が各受章団（員）受章者に秋本会長から表彰状等が授与され、表彰旗以下の表彰については、各代表者に授与されました。

第2部では、前総務省自治財政局長 椎川 忍氏を講師にお招きし、「地域の元気は 消防の元気」をテーマに受章者および消防関係者を激励する特別講演が実施されました。



会長式辞



総務大臣祝辞（代理 岡崎消防庁長官）



古屋防災担当大臣祝辞



特別表彰「まとい」 10団



特別功労章 10名



優良消防団（表彰旗）40団



優良消防団（竿頭綬）88団



功績章 934名



精績章 2,227名



勤続章 7,151名



優良婦人消防隊（表彰旗）15隊



優良婦人消防隊員（功績章）20名



都道府県消防協会等役職員
永年勤続者表彰 6名



特別講演「地域の元気は 消防の元気」



講師 前総務省自治財政局長
権川 忍 氏

第65回 日本消防協会定例表彰者名簿

特別表彰（まとい）

10団

都道府県名	消 防 団 名
宮城県	気仙沼市消防団
山形県	舟形町消防団
埼玉県	入間市消防団
茨城県	笠間市消防団
長野県	辰野町消防団
愛知県	大口町消防団
奈良県	五條市消防団
山口県	山陽小野田市消防団
香川県	三木町消防団
福岡県	福岡市博多消防団

特別功労章受章者

10名

都道府県名	役 職 名	氏 名
北海道	北海道消防協会会長 札幌市東消防団団長	東田慎吾
岩手県	岩手県消防協会副会長 一関市消防団団長	大森忠雄
福島県	福島県消防協会会長 須賀川市消防団団長	佐藤 茂
千葉県	千葉県消防協会会長	石橋 毅
富山県	富山県消防協会会長 富山市消防団団長	佐伯光一
愛知県	愛知県消防協会副会長 名古屋市露橋消防団団長	一ノ瀬喜之
兵庫県	兵庫県消防協会会長 伊丹市消防団団長	岸谷義雄
岡山県	岡山県消防協会副会長 津山市消防団団長	土肥祥嗣
徳島県	徳島県消防協会会長 阿南市消防団団長	中川 正
熊本県	熊本県消防協会会長 熊本市消防団団長	米村昌昭

優良消防団（表彰旗）

40団

都道府県名	消 防 団 名
北海道	石狩北部地区消防事務組合新篠津消防団
〃	上川北部消防事務組合美深消防団
〃	増毛町消防団
青森県	三戸町消防団
岩手県	九戸村消防団
宮城県	七ヶ宿町消防団
秋田県	能代市消防団
山形県	戸沢村消防団
福島県	猪苗代町消防団
新潟県	潟魚沼市消防団
東京都	西東京市消防団
神奈川県	藤沢市消防団
千葉県	旭市消防団
茨城県	水戸市消防団
栃木県	那須烏山市消防団
山梨県	上野原市消防団
長野県	平谷村消防団
福井県	若狭消防組合おおい消防団
石川県	七尾鹿島広域圏事務組合第2消防団
三重県	松阪市消防団
愛知県	名古屋市中八事東消防団
〃	岡崎市美合消防団
岐阜県	岐阜市南消防団
大阪府	柏原市消防団
兵庫県	上郡町消防団
奈良県	山辺広域行政事務組合三宅消防団
滋賀県	豊郷町消防団
和歌山県	海南市消防団
鳥根県	奥出雲町消防団
広島県	神石高原町消防団
徳島県	上板町消防団
香川県	さぬき市消防団
愛媛県	媛松山市消防団
高知県	香南市夜須消防団
長崎県	川棚町消防団
福岡県	志免町消防団
佐賀県	嬉野市消防団
熊本県	人吉市消防団
宮崎県	宮崎市消防団
鹿児島県	和泊町消防団

優良消防団 (竿頭級)

88団

都道府県名	消 防 団 名
北海道	北十勝消防事務組合士幌消防団
〃	北十勝消防事務組合上士幌消防団
岩手	久慈市消防団
〃	矢巾町消防団
〃	西和賀町消防団
宮城	仙台市太白消防団
〃	大河原町消防団
〃	岩沼市消防団
秋田	三種町消防団
〃	男鹿市消防団
〃	湯沢市消防団
山形	村山市消防団
〃	鮭川村消防団
〃	鶴岡市消防団
福島	伊達市消防団
〃	田村市消防団
〃	南相馬市消防団
新潟	津南町消防団
〃	粟島浦村消防団
東京	蒲田消防団
〃	本所消防団
〃	奥多摩町消防団
神奈川	相模原市消防団
〃	厚木市消防団
〃	綾瀬市消防団
群馬	昭和村消防団
〃	甘楽町消防団
茨城	大子町消防団
〃	結城市消防団
〃	利根町消防団
栃木	那須塩原市塩原消防団
〃	小山市消防団
〃	岩舟町消防団
山梨	南アルプス市消防団
〃	中央市消防団
〃	西桂町消防団
長野	北相木村消防団
〃	生坂村消防団
〃	小布施町消防団
石川	野々市市消防団
〃	川北町消防団
富山	氷見市消防団
〃	滑川市消防団

三重	桑名市消防団
愛知	名古屋市東白壁消防団
〃	名古屋市太子消防団
岐阜	多治見市消防団
〃	垂井町消防団
〃	中津川市消防団
京都	京都市右京消防団
〃	京都市伏見消防団
大阪	貝塚市消防団
大阪	富田林市消防団
兵庫	伊丹市消防団
〃	宍粟市消防団
〃	丹波市消防団
奈良	明日香村消防団
〃	宇陀市消防団
滋賀	湖南市消防団
〃	米原市消防団
和歌山	白浜町消防団
〃	那智勝浦町消防団
島根	飯南町消防団
〃	知夫村消防団
徳島	美馬市消防団
〃	美馬西部消防組合消防団
香川	坂出市消防団
〃	多度津町消防団
愛媛	四国中央市消防団
〃	久万高原町消防団
〃	愛南町消防団
高知	香南市吉川消防団
〃	仁淀川町消防団
長崎	長崎市消防団
〃	時津町消防団
〃	小値賀町消防団
福岡	久山町消防団
〃	北九州市小倉北消防団
〃	直方市消防団
佐賀	有田町消防団
〃	大町町消防団
〃	江北町消防団
宮崎	都城市消防団
〃	木城町消防団
〃	諸塚村消防団
鹿児島	伊仙町消防団
〃	天城町消防団
〃	枕崎市消防団

茂和光一隆徹芳衛明也雄夫俊雄 志宏幸朗雄彦美人明彦治清郎造 信悟孝則彦司雄郎優造昭等夫雄裕敬宏勤夫格喜之嘉昭光勝夫

義範勝 正庄義徹一宣 幸 忠 勝美幸栄克重孝泰幸 慎裕 義 友利賢一太 雄 重秀利喜信 昭 良重一秀教 信

須井田石野安井木谷保口野島田 浦中屋川侯塚込川沼澤井部橋井 澤嶋澤部嵐藤澤田林川翻本本村藤川澤田井木崎本合老高中崎
三石豊白荻岡新鈴染久江平田岡 三田土熊猪大堀石鯉小新阿高永 高鷲宮服五伊梅合小宇醍山山木齊小熊增藤藤鈴宮松須山小田露

隆行一 矩夫武輝樹彦博博一郎隆義雄久良忠也久之二之哲生夫元 安二次男敏美郎昭治二耐次夫一幸明夫人 重徹也登記彦稔

重光 義繁 正勇利 純八直秋一進文 敏武博信寬 仁功 啓省福世志正政治秀清昭 健孝義和英彰成 治 拓 章一

田橋地 島 村藤 藤藤田廣木谷山藤塚辺橋口角間田中原田川田 秋邊永島野津下田合野藤野島田藤本澤川 本旗田島木澤草
上市菊 福林木齋牧佐齊岡末茂納杉後戸渡高谷三坂澤田萩富長和 西田德豊河大木橫落吉齊牧飯吉遠松小小 野大池長鈴岸伊

男夫隆浩篤喜一二孝光朋恒雄三二己行一廣一 次昭光男栄平彦彰広久浩文志二男治仁德一浩久行拔芳敏武敏健夫行次一一磨男和治

利文 利 吉秀孝 隆政 貞正徹文富雄芳孝 昭良吉和一剛敏 正 正敏仁俊利惠 一友 義博 一正 直 三七 正勤晴啓一正秀勇

山田倉林角藤川井黒上村竹竹間藤田狩田岡野 林邊村山野澤沢井形川川中橋柳島部川橋澤野橋 口木崎橋村池藤形井松本田 子原

檜藤大小六齋長夏目水河大大久遠吉猪岡片高 小渡田星沖滝平米波小源田高青小阿長諸北友大関樋鈴福高田小斎尾蟹村山平柳金笠

一幸一一弘治利一美昭光一友 志信力治男人夫男賢之樹郎美浩義明誠助夫明智郎昭博好広 夫郎晴三夫幸良明信雄三二雄利一一

鎌好洋憲勝生勝 芳 幸嘉良 清長 幸茂正一和 則秀索一和昌正 勝眞 正智 久正 茂考義雄和寛 宏重嘉一健孝孝浩正

関藤野口須藤橋藤泉田江成藤 口藤藤食塚 司藤城附黒尾形上村樫問原田谷藤橋藤野屋波 部橋木野田藤藤分瓶川田橋田田子藤

一佐清田那佐高佐和富近西佐 山工伊安西笹庄佐結石石神小井三富本菅伊柏佐高齋小小難 阿高鈴小富齋佐國二古本大吉添兼佐

夫文明純一勝敏司夫也淳宏一夫雄典一薰美則正一夫郎 則二勝隆茂良喜男勲志一美清信雄淳義明宏也一行六 喜榮一男彦行

公一忠 堅重正直久拓 雅光俊増幹新 勝公善松邦元治 倉松谷來藤藤部股木渡崎田藤山葉根村井藤木葉藤田 誠 亮徳一俊

田原木手木木崎原部股坂葉田橋葉木橋地根田谷崎川木 沼大熊福佐加阿猪鈴平岡内加若千曾木亀遠佐千佐吉 玉林山良谷戸 尼北畠奈加古

松川佐井鈴佐大菅阿猪大千藤高千谷高菊長野荒三石朽 沼大熊福佐加阿猪鈴平岡内加若千曾木亀遠佐千佐吉 秋 田 玉林山良谷戸 賀

敏矢隆陸誠武正 進英勝 義勝智昌 和 博逸建一 幸秀周隆義昭一一 郎尚悅英昭門美平茂隆一三城次孝男美正孝

遠溝柿金森田安竹波桑林伊有渡小荊太林寺伊小西高山大福酒村小更佐細野小 村川下岡測田林田谷橋向嵐崎木 澤田戸井

藤井崎森 端澤内切折 藤澤邊峰谷田 島藤杉村橋口塚嶋井田石永藤川畑原 喜一 俊博則定和雄 清彰陸勝亮 勝武照博

北海道 岩手 宮城 青森 福島 山形 新潟 東京 神奈川 埼玉

彦正雄 廣郎則始次保男生美 富己二洋肇雄男彦章明二 郎美介男光純詞宏守隆昭樹哉 志強行治已彦

毅公 重勇達克正進康教保 正克眞和 輝明昌力敏清 惣好隆正正憲泰 博正直次 靖博憲正敏

鳥本中 山谷本西口山中中村 崎尾田内江部関保増本 上川谷浦方鼻本田 本本下野 田名甫木佐田

大梶田 中木松小谷金尾山上 山平吉川杉服井大富山沖 野古中大大垣松前沖井山山北 岡桑反佐岩金

史昭行寿広郎夫 之夫茂也岳正幸次樹雄 司喜弘祐行孝司治浩久学史昭晃文満也和治志雄豊剛彦雄彦喜幸毅尚喜宏也博人治彦也勢広

泰直智 章一輝 安正 隆 康一貞秀幹 雄信 秀信清幸賢 元 喜敏 博 卓久康大定万 勝幹芳正敏 大秀 達茂眞栄政稔秀正

田岡崎尾本口鳥 下本野井田村條道和上 屋口井塚前森田野村田村堀延下井口崎原田崎藤藤原槻倉山田上谷 山橋辺島田上内中路本

植吉岩長桐山鹿 樋山前杵藤松東古田谷 土高藤大大西鳥荻奧西田内射宮中樋大藤島山伊加松高篠西沖井大楮 嵯峨高渡眞吉川竹田田堂

仁一 郎則雄章久幸彦明朗男則栄造志也紀宏仁俊男 彦幸夫彰和博好男已志宜基己清豊弥義彦俊聡朗明 則司重士友夫司治誠久啓

秀伸 宗善道 武弘文友伸文佳 大雅雅博明幸 光 和友壽一忠眞辰典正和頼益浩 哲藤勝邦 久 興浩壽武秀俊正 和泰

津嶋 屋屋川田山橋尾間島郡肥谷島木下田 山原 谷藤田宅島江場田丸口井 嶋谷本原原崎川笹上 根保西田西多橋木澤村本

深前 土土小山山長風山古土池川鈴森寺南瀧青小 関近多三大安番坂井牛井淺森宮熊森園粟熊桂無井森 會北今森中喜古八長野坂

二登一朗 雄房実茂昭夫博芳博隆信 彦生夫典己行則彦敬司誠夫弘 義弘治正藏道哉優樹也一雄弘二太郎宏仁光隆孝智志也久祐和

賢 伸敏 秀利 保秀正 和克義友 勝茂辰和浩弘正清 有 佐康 光康謙一健重勝 秀達順秀初伸長一 太康浩清 大孝誠勝敬敏

中簀高室 宮貴田田三神杉島山平宮 飯下奥中松平中小竹久稲東清 井木野部木井矢原谷垣藤田下野川田藤藤藤島井本藪木野邊

彦仁行恒朗宏人次裕文廣秀教 篤守已浩治敬樹進隆登弘一臣一彦明司要透之男司司男夫正幸保久男弘隆 勝明男博実治年 男次

和一利 光一親孝初充勝政 澤克勝賢 芳 清正貴雄輝 岳克圭 勝善孝佳長常 浩晴智日 出 英英富 省 幸賢

泉志山月池 月中爪野本屋條 邊見川屋澤藤森島澤澤澤澤口口脇山橋澤山像島輪原畑村井羽藤藤腰下山上 下木本元本山原 匠野

川比遠望赤岡望山橋天山森上 渡高塩土福佐藤矢滝大塩矢樋森西内古白片翁田三塩寺中筒赤伊阿竹宮青畔 松鈴松水橋秋河 番内

久之勲彦一孝 男一清成清典昭弘稔正彦一志良憲道男夫守榮己男彦勇博男夫一好泉 博昭男夫志男義幸則一裕一清一文誠男 己実

博良 敏淳好 忠準 和利孝 一一仁博高正正喜忠 勝芳儀一木和道吉正 政祥文乙仁常哲和恭修正祐 浩和 祥

藤保藤川田口 野木羽原田塚門 著名川山本山瀬頭田田田本保知塚瀬保本木賀沼代 野塚森沼塚崎畑坂屋藤井藤川池 本井

斎久内長山溝 茨 弓鈴黒海羽石寺枝稲椎小大松増小出藤羽飯根久多石廣久松鈴須永神 柄 上大大水大石五保土佐薄伊小菊谷山和 倉之 網堀

山梨 倉之 網堀

山梨 倉之 網堀

山梨 倉之 網堀

山梨 倉之 網堀

二德雄則輝德治兒 夫功博明優男樹美春年次久好之弘男

讓龍文善誠幸雄健 貞 俊勝 高直輝好克信幸重典祐春

山嶋村口田吉谷田 塚川田淺田野田尾藤松本埜川部藤藤

高上高野中秋花福 飯押德湯久川鎌八齋小杉河小阿工佐

歲朗一則三學二勉隆幸彥勝三昭稔任吾 弘光榮
勝友良時幸 修 嗣一吉 正義正裕誠 光清長
池福田阿世西小野田迫 里松場原口野 樂

嘉嶺里 比大安

司秀一元雄勲一 高欣昭 一 誠 原本田葉上田井 上江吉千井成酒

敏彥美進尚了慶人幸之文秋則郎雄博寬男弘之
正和勝 光 康弘文和弘喜正幸楠伸 和靖達
島成田滿添村野岡島崎渡崎林原中瀬島川上澤
中福鶴合川中中西中山榎尾中西田柳秀西測大

孝一 秀裕恒 孝正清義正浩浩博伊智 和一 榮雄啓幸輝收政
西夏植杉木室佐加住下甲藤竹上杉岡村御塩中東山窪瀬畑釘園

悟文信義治郎 一繁司富士磨二博藏郎三實俊人博晴明記夫美之明治志

勝成敬正三 謙久甚博裕治俊保勝功一田數良 正善豐一博芳 賢貴

田田田居川戶 山藤村村田崎尋野村野永羽田代次口尾島中田見田田浦
前柴原石早宇 小森中川内松八柳内矢杉矢吉田菊江松中野西岩西森池

淳源征正茂誠 貞庄芳定平昭修幸潤信
玉方野下原津隈口矢田門口廣柳井
兄緒小堀桑河日水染柴小花釜山國青堀

樹 好次正要二修一男武弘仁德男正夫治三清一幸

茂 國修 伸 宗光喜久 吉好博久 壽 拓健健 功增

島 原藤橋智下部西野好野田野保程頭山田木崎田岡

生 篠近高越丹安大青三天岡立久大城下武正綱戶松

郎次助登夫一之明雄 幸盛俊 哲幸宏孝隆 隆 孝幸守拓誠能重光哲進精

英巖豐明祐光介有範敏生男郎二
田川原木尾本嶋永 田瀬田利本

明治豪之博司巧範明治 治真正司彦雄芳祐政生雄雄美治郎

弘穰 德 純 義 修 庄 一和隆登正正陸丈哲壽和賢芳

野田淺崎藤月田田田江 子田村松岡田谷子辺田田田廣本石

朝有湯河伊香新池山堀 金永田小荒倉木金渡村上流末橋廣

市宏幸往尚衛夫郎隆行一司 裕一三弘勇一文勉
利是淺定 一圭一 芳和榮健 和俊剛義 淳正

藤岡合岡山藤住村

昭明文弘 明博生和金昭平博三美二敬吾浩茂晃滿剛輝彥明夫三守久夫彥造夫博典夫
俊輝章正 道文一義隆道陽公昭勝良 伸芳 茂和雅雅龍 幸攝素修睦一 顯安

原貝中田 本上原村勢田宅本野藤本元藤合森林浦尾本本井山山合重 堀川尾藤瀬野

藤細田村 山尾延中能池三岸長石山藤佐名藤小松淺山橋今片片谷大関赤中妹佐一草

治男博信夫郎秀樹曉弘彥 耕重 守岑榮正芳尚敬敏
田田口場元好川沢川近繁
眞小谷水松三湯大松延森

精績章受章者

2,227名

敏明二宏彥 隆 信勝武
阿佐々々々 佐々々々

治昇行寛敏稅三 善 正 壽主健 菅三三與兒熊渡

昭悟和利正郎二 利 良勝秀吉俊 井田崎末問 本 藤山宮森本関山

男治樹豊庸人男 幸清秀 高和東 藤 井崎村野木 佐林花山中高鈴

夫德榮男武哲三 一吉良和 重 泉崎谷東達 田 和宮南伊安今上

司秀一元雄勲一 高欣昭 一 誠 原本田葉上田井 上江吉千井成酒

一男淳信明樹昭男市美志護一巳
慎英 本利光義松清敏武 準壽
二雄芳郎明彦治弘真治良夫郎昭一弘浩樹意一和一聡治一志勇和一弘行雄男樹文喜造一広幸調樹幸一

嵐門川橋部藤達木田井相橋部
五十五土石高渡佐安黑太國阿高阿
福島
竹藤藤藤木林藤藤野邊菊田邊谷野本野田木矢邊子川貝藤田瓶吹野本藤樂原間田田川川針沢保邊 本部
大佐伊齋篠小遠佐菅渡穂安渡熊菅塚菅添手降渡增櫻磯佐吉二矢菅橋須相大河久佐姪吉佐佐小金吉渡森杉岡

弘二宏一一進男作己一廣齋
聡二司隆実二晋幸正之之芳吉一也智弥也齐修輝司美一一夫洋司昭治之市也信之正英博史悟彰淳篤一郎憲也

清信重喜 好祐克宏 眞秀清博憲 克 正直淳勝秋真 秀新 政真正榮孝輝 敏好俊長真拓靖善一信明康 桂啓勝尚

藤口橋木川澤田部原村橋藤
熊井橋田木場野藤藤野野田類嶋岡部屋 部藤田澤橋上戸口嶋田藤木藤口股橋津藤口達崎藤間藤波司藤脇原
佐谷高佐長白半阿小木高佐
梶酒高富鈴秋海安佐瀬芦吉大豊村阿小関 日伊新香高井二矢西土齋佐遠山猪高梅佐山安宮工本齋難庄伊門菅

山形

喜一繁孝孝敏俊明典夫志幸直夫郎弘男彦則孝一男一一郎 之二廣晴悅聡雄克夫毅清文郎春和人明高典一生活博郎雄昭一一雄正男補志吉

英善 秀宗敏貞正清敬和信 一勝勝文元長清憲一 敏淳善久久 滿佳治 吉喜善好富憲壽 一隆民康滿金義豊成広喜忠一勝高新

木垣木部谷部葉川原藤木田木藤藤村木藤野藤藤谷寺藤橋
崎原岡川田石沢山保川森部川井間藤田田子藤原藤藤藤木橋蒔部藤口卷田川部
佐板佐安熊阿千市菅工佐山鈴佐佐西佐遠淺齋佐森小野高 山田浪石藤武白腰安荒米渡石藤遠加櫻土金伊桑工遠工佐高戸阿安田豊判稻岡

秋田

司典樹司也明彦恭男美雄孝善悅雄藏雄久一昭男男信明男夫男彦 登志彦明清夫平久一一夫紀彦一生幸治夫一男治治術誠次夫敏志一悅宏

利芳賢一 裕 武一設景富亮勝利定隆亮義春吉秀義民照正 正和俊 建仁清祐勇祥正良広郁利正善幸常 新勝 栄幸 一精孝

坂橋田池木本池藤橋浦葉川池橋川張寺船市保測村橋保藤上木屋敷
邊辺塚藤邊木谷達田藤部水藤間沼橋原戸藤山藤藤野藤家木木村野佐木
大高関菊佐藤菊佐高三千及菊高小岩奥三五泉井上高久齊幅佐上中屋敷 渡渡車加渡鈴澁安柴佐阿清佐岩大高菅穴齋橫加伊菅佐氏元佐木樋遊佐

宮城

利雄德正彦清地郎造二夫次雄夫治男雄人昭一政廣実弘勵一明明次力一 茂進行男樹一隆人治郎男彦三司一昭明夫夫郎生司男男一也己彦

博文義公和 玉鉄林善晴彦陸輝長石金明美寿一和 敦 光高吉廣原誠 幸繁良敬 久喜耕峰利良祐恭秀 哲喜朋良勝信一仁良克一

形岡山藤橋光野藤谷名村藤坂内田内村谷浜合場川山本谷野本平谷笠坂 澤田々田山部橋池崎木國沼澤賀嶋田家木葉山木代葉葉中藤邊山
山松福伊高倉上伊傳鮫木清高十附長中山白水馬笹島山碓小坂且秋小逢 館吉矢吉作阿高菊川佐小赤穴佐中永氏佐千島鈴藤千田近渡中

岩手

廣幸法學一雄昇治公一志男弘一稔勝夫弘德雄幸隆美藏正次辰一則清郎彦見宏豊悟郎夫行則雄幸繁浩治 紀弘夫一文美夫次規則善義明英

雅博譽志 清信 圓優政弘滿 順 正保正隆一正 秀嘉 美秀伸康 榮雅清嘉 一義信壽澄廣 兼 正由則精利辰幸重正清昭昭秀敏

手野内田上村上 西並関藤佐嵐谷井邊村橋野木岡田田井林部地品近上辺村本山村川谷笠田上名槻池 池田澤士口木藤田池藤馬田田

青森

横小竹品根岩村辻宮松古工岩五水細川吉高佐八片其成福照小服得三髭岩川川山中西田熊三松井蝦大菊 菊成杉福山樋佐工鎌菊工對山花

和紹也則好幸始文彦明一康彦之章一浩一也弘治彦隆治彦共一雄敬始
宏直鉄直恒英 昌政一義嘉利義 健光正哲恭修正 謙雅康隆英 保 幹敏弘 義 修繁一吉一三重 正和正 敏 政智和清紀

橋島立川貫水井澤林原川田水田田井子田原田湖原田口田島永井崎井
高田神小綿清武橫小篠柳黑清篠石金金内萩須小萩宮岡岡中吉浅尾河原井
千 葉 向秋山大伊齋関山橋笠增門榎猪山山鈴血神小小久栗鈴宇藤久出井

明信憲 一兒男夫清典三雅真計剛夫二夫明也夫夫美寛之雄久一也郎潔弘吉司正司也男一明德良正治男治治茂平二夫明雄三行
千正正 秀健悅陸 克健照 元 幸裕一輝哲稔昭勝和孝信治良名太 隆昭健照誠勝幸修和良紀信正一吉隆 慎二松敏春昌忠 孝英八

澤野山 須野本根木木貝林原尾田波中原船田田林熊藤田木子川島邊根藤島 林村野本崎田川木川邊田藤波根木田元沢田木田
小青遠 黒畑宮白鈴鈴小平笠深小藤堀吉早豊安小大加豊鈴浅字田小澤関伊長関小木岡野山黒及茂品渡内佐藤関青沖秋宮太鈴岡 馬 村子本 木田山

夫豊一之春由一也護光也夫俊雄之一修志実 夫行男一雄潔功雄一剛祐雄雄一久幸彦英雄一俊正久明夫一弘二則光彦清浩洋章郎吾一樹二
利 淳裕公和光憲 由哲昭国伸宏宏 龍 康一敏昭龍 寺孝恒光宏幸久征正久映明武亨志 辰惠和正保泰壽 政雅広一彰隆 宏

島木田井藤田幡野藤際口岡井木澤 木部沼 井川村藤野島保山藤澤矢田野坂野井水澤内 渡見川間藤野田井瀬尾澤澤川田藤 沢嶋嵐内
中鈴秋溝佐寶乙村加山山吉白高大榎佐磯浅 神奈川 金枝國佐平永久西工松尾須佐生川荒清小武原石辺森佐武鈴宗櫻廣神伊大宇櫛佐岸小水千梅

健也一雄久豊一一一滿明敦隆哲吉文樹男 弘一彦行郎子武茂子友夫広茂平功美夫正一男公義博宏郎三章一信夫司男豊郎雄一一男弘直伊
和信静親 謙隆秀 信 清 三浩秀哲 和誠英順一ツヤ 良勝雅良田三勝明八恭久常 久雅和清勝重伸重正隆光 三良勝峯敏 正章

田野岸山澤間子山口上藤沼野野林泉塚川 塚位澤山田藤野原 田下井和賀尾田田口井倉山堺原谷島下藤藤間村崎本野倉藤村山藤部林原
増坪山丸石本金小榎村伊水小大小和赤中 東 京 大平寺栗保伊天相東武山浅石志西原吉川武浅檜小楮澁中福加佐岩中小山小矢伊下青齋服小栗

也忠徹夫守晃英男峰孝平榮保稔志信平治求功平一夫満市司美輝夫昭良磨裕夫一一之明行樹樹義明志利登一明将茂一雄志人司晴作之雄浩央
信 三津 正則 文正昭岩 公稔孝好 正健孝 又大正 久美勝義彰藤公見克信隆 弘和 広政 健 喜千喜義龍好榮浩岩 万

嵐多林野庭山藤中藤沢嵐原田藤村 部藤口橋岐川倉木山部本川上辺桃藤安部井野本良田川林田野田沢田 橋原林嵐田間川内藤野山路島口
五波小高稻丸佐田齋枕五笠織遠上近阿齋樋高讚石小鈴村阿寺立坂渡大佐住渡広高岸千内荒小池高岩野遠柳高藤小五須草脇丹齋安船姫長江

実功一夫充郎一男雄時男清幸二一勝澄美美則進雄夫郎治人実成之美夫三美男彦明行正一智進 毅一雄一則已秀学行行樹彦也修士淳英一
一 卯保 七順建春義祥 喜健良 真義哲正 昭敏慎永正一一哲好忠孝浩泰敏裕隆信成 正康英雅正嘉 秀伸晴明竜 隆 勝隆

田田戸角中木田岡藤木 田藤嵐沢家田嶺 柳賀 倉田川田田崎田藤木田田井藤内馬井 井野 田山藤藤藤原川藤才挽柳 村野木岡城野
吉村獅六田寺新村遠青薄金佐五滝菅岩長星青芳星小吉皆吉石柴會佐鈴大渡坪佐武門百林桜高 新 潟 平星齋近齋塚小佐田矢青原種中鈴月結星

美征二浩 一博二一雄一樹行雄茂夫明一史 滿作夫制治幸男美門昭雄三二徹雄則治廣志男浩雄三登良 昇一明作德滿也志之昭男勝

成紀英靖 政 一吉時四秀敏俊 明正吉佳 清幸 和輝正在範良重謙 行清豐政孝八 康謙 勝 文繁新清 拓公伸音吉

村岡田中 本近田 田出座村村施中 川谷 納野 所野瀨井川 原山林藤森崎川場司木上田地林林 川川井谷藤藤川口岡田山田

中寺松田 樋石上桂西新島西布田辻小成 加西島田天柳荒長淺石柞金小齋川石中的下袖川前矢小伊 早市松水伊伊天樋北野橫柴

一學巳司一幸信一利一幸豐男勝一治弘幸登己德文健昇之二則二樹久秋彥市至藏一弘明邦敬廣一彌義一一二 信郎一利治三人雄幸夫司治

恭 勝聖慎貴良淳隆健秀 千佳 祐真昌弘 元好昭 佳裕和公理和一嘉秀孝幸敬貴隆英義和德淳廣洋昭勇 昌幸良弥誠留正康森俊勝千代

村中越田藤坂木山瀨 田石林木地柳羽松山內入澤本上崎田村澤山下井內澤澤本木屋川澤原岡田谷村石田科 川目田山村嶋 塚崎平口田

木田山杉安古和秋永森細根平本忠青島小桐竹宮滝橋川山栗北藤丸木浦初宮中松青土內矢桑末岡戸竹明竹油 北折吉平木田乾石山上山飯

樹八光一猛和人樹也昭和郎人之三男美義雄信彥 久介則英勝武光淳淳志稔之広郎一博雄亮武章昭明則德市典司一城人也博彦義貴三弘俊

秀公 良 和秀哲光広融信裕鍊定一孝久 達 德大永博 也 義征龍浩貴輝史 俊広裕泰乙靖光功英一直和武勝公幸康博

藤月和林方野泉松川子村田內邊倉木田藤水原羽 出埜島島口森橋澤林山田橋辺島野角井出浦藤野林村田林井 藤入川切下澤垣割田田澤

加望千若東上有平松金志前堀渡都鈴花佐清石出 井的中中山西高宮小春本高渡大保兩桜井山齊竜若中岩小今濱伊竹市小宮宮稻龜岡池福

一 夫修功博夫修雄文洋夫肇夫夫哉順稔貢人宗行二夫一郎一磨男正雄弘肇夫一智俊理平男一 勝二之光雄樹彥徹民資也弘広直喜成

昌 忠 幸代 幸康 光 哲茂辰和登 正義幸暢浩伸 典泰章泰 哲利 秀 昌秀祥 英弘弘浩正勝 和武達章長 清政

山 邊田栗藤崎林脚塚田島塚崎田木人平沼内橋山地木塚見山本石田口根崎崎森内野馬中川村田 道下田森原沼原東原坂藤水本池水上

香 渡津野小齋戸小大手藤松腰尾鳥鈴法高越寺大中菊鈴大人平松羽川樋関石田大竹高相野荒木福 本岩山橫菊大萩伊安保工清坂笹清水

夫一雄一一一幸邦洋男実一男正修一豊己一美修支明己靜守郎子德一之孝二通明裕一茂正人文樹章明己作男司知夫進司男良茂弘夫二夫男茂

文幸育智榮貫忠芳佳俊目孝和 伸 克誠直 里正克 正一真和信克 雄 美 昇 正好有 利正榮靜英良一 健富規 俊賢英一

川木川司藤島本泉木竹田谷藤本本口原木 根田木根井木武崎田山木邊野山幡島田木島崎木村貫松賀 井渡里岐田滝生葉本尾野 林原林林

稲鈴荒郡齊橫菊小須小生萩齋根塚山海鈴环大柴沢曾加吉小富栗高渡小石小飯國廣笹篠鈴木大小糠塙荒越大由永大羽柏宮瀨大蔀小蛭小神

史光雄己幸博浩智一美男肇美夫生一也之信善宏行樹一明正唯文明明夫章明夫人一三弘也之明一之洋統男一平悟吾三 男雄男功健之雄郎

寬和一克伸 義昇茂真 勝安純孝哲博光和昌常真陽光和友浩登敏明成孝憲正修正康欣基信浩博 正光憲良 健圭 勝久輝 裕恒好

井保井咲木崎塚木郡見 田貫藤木村尾田杉橋関東戸川子柳瀨川葉瀨山岡原辺井正間梨平島田瀨野瓶塚口田木渡品谷 長野本上井川部川

櫻海櫻藤鈴山大鈴寒高椿中大安久木坂島金大大伊風古金高佐越秋嘉古鶴栗渡酒齋佐高藤福武佐佐三飯山飯鈴石高桐 渡中宮井櫻小小

茨 城 勝久輝 裕恒好

渡中宮井櫻小小

渡中宮井櫻小小

渡中宮井櫻小小

渡中宮井櫻小小

渡中宮井櫻小小

史樹已也弘司美也明和己繁亨樹志也幸文道人伸吉人孝宏二博弘朗規明行夫弘彦一晴三久次弘広広幸朗史生三文行壽之崇郎典志也樹藏和幸恭秀勝和貴健克勝善孝克 正武国稔義博正惠秀直英基榮順典一広善英文富仲功善健貴恭政敏基良一和光弘聖義計敬 伊克紀直基大義正

田原澤下風部田谷上中合野北西島本下村村倉田立瀬見見本川崎原原村場山田田條山野田名田山上本月山本野林田岡本塚影本手田政川測原蛭藤藤木道阿八中井田河荻河福小藤城西西笹原足広高吉橋中宮三藤竹稻中上瀆六片岸大春植丸井藤上横谷菅小高藤藤犬東山山米安細田加古

武一滿央彦之夫勇司武宏涉雄正志二治男松昭文彦之 雄男生章之雄已久吉朗則茂生一郎敏治喜春一夫弘典樹仁司男義優司護則郎勇明義

秀 治和博俊 秀 全 規 健俊良幸助信勝行則 郁明邦邦治幸正典三龍正 達健音則壽勝富洋房一泰直 貴一正 眞 政卓 秀久

浦内谷田村本田田保田野田 原久田谷上達田中本田林 坂 田馬田原村川澤野永島田坂谷合中田原原垣本田 口保西村田留中田永谷田井

裕宮新上柏山羽久吉中米原藤宿原山村安山田松高小 小辻澤相岡蓼松吉長佐阪福吉黒玉磯田村槐松山西西楠西久小中細鞍田岸宮澁森平

廣美博和哲光三弥正司兼彦哉也夫樹喜 晃文正義宣二夫男一次晴治樹典之彦規彦彦司彦一幸之至也雅治治章司之將明之智正利司 周

克茂泰清 好雄篤 武 好哲哲保直浩 隆浩和 聖義和晴修丈良英正貴一宏康康孝輝雄秀博真和弘 千正圭敬隆一嘉 成健

平田 川尾 川本口会内山告崎村下 林田田本村木 川越原口澤原村田口道林井口山邊口田田中浪里淺間村 浪倉井辺野本田 崎

山澤辻谷瀬伴古森馬度垣横交澤河山劍 上 前 塩山木八林古山一谷唐福木織山立小辻山片田山山藤田井由湯本木堀川小岩渡上山松 大 阪 河

彦樹之嗣彦之弘子宏德治志康英行康行嗣紀朗博慎 司利吉造幸仁光則之志人彦和司隆司孝彰文一重太義利文浩人一修実人春春彦誠昌之

正勇裕欣和孝昌節貴正憲貴則義今朝博哲祐太敬重 惠正一玉正隆孝勝裕正久利清浩寛俊繁 佳信初 元和保美康広 浩智清成 良文

澤下山村渡田橋田原中藤山井來川川藤我桐本本本 本崎井山瀬納藤前渡屋尾垣井尾中林林 藤岡口井野茂崎 井口 村田田古倉邊下

小山杉木佐和高山萩野加杉櫻市中市鴨曾片坂山松 藤長平桐永加加大越土西稻新長田中竹蒲佐芳川木今水丸坂林今田林二古新佐鎌渡森

司昇文明明博俊彦行司広美男司雄充之司正等也司章治雄志郎広吉樹研広 隆樹明修次樹之彦雄洋明幸昭之次夫郎彦信仁弘一久雄治忠生

健 広道成正正敏英健明卓幸守雅浩恒守 達浩靖修一武康和信尚 正 弘文 賢弘章和敏昌善榮忠裕榮明伊隆泰直光朝浩久 泰

藤松野藤澤川林井田本輪内山木田村瀬田本本藤田賀知井山藤辺川田木川 木熊川本地屋木 川田宮屋藤田澤邊本田野村月山山城澤司谷

加平中佐竹早小坪吉橋三竹外佐鍋木村太山山近増古倉簡遠伊渡荒金佐長 鈴大石笹菊土鈴林廣島二土伊太深渡山栗佐花若杉杉見北庄洩

晃一行一一男紀樹長雄孝敦太二清雄一郎次敏 郎次樹利孝幸弘夫三篤宏進明廣高雄夫次仙人賢弘雄篤勉幸司吾明也規介浩已巖幸次樹之

陽勝敏則宗英秀宣光 良章憲文壽潤正力 一昌俊正 良昌計富 國 秀晶恭幸信雅年明 晃恒 敏誠誠良昌明祐恒克 友光浩貴

中口田下測保田本柄早井村分谷出島中鬼谷本 立田川尾原井井須 橋井木部野口本田 田櫻田 下井角川 藤田 野部田川田谷山木山

田田梅池細久村松問喜森井辻上山田三三山 足吉廣堀杉横横那林高横荒美丸野藤水勝成富山牧丹春岩宮原加柴林神刑沢長太入杉鈴勝

愛 知 一昌俊正 良昌計富 國 秀晶恭幸信雅年明 晃恒 敏誠誠良昌明祐恒克 友光浩貴

足吉廣堀杉横横那林高横荒美丸野藤水勝成富山牧丹春岩宮原加柴林神刑沢長太入杉鈴勝

誠 明稔秋浩美晴清年志保弘忠明雄雄一章廣司一賀敏次守文志輝 雄幸憲雄修繁計幸義義夫士秀幸久悟則稔男男 三文弘宣雄博裕

千昭正睦 千武信善 輝鐵俊研雅昭孝順和和智 博政明 文浩克日 光敏利孝一登直光隆 正 悅幸 賢博 秀照

田木井瀨橋木村 三 瀨藝本水馬原林丹田內居村西邊居田瑞田田 山川田橋川山中田井宅田田邊田川子 藤原橋井橋藤條

木 蟻相藤田土仁谷西柳安桐清三山宮伊飯中新川大渡新內勝西山 佐々木田崎 山川田橋川山中田井宅田田邊田川子 伊篠高玉高伊萬

明肇守國浩彦宏法年雄雄之幸平治信守典弘弘治晴豐次 己成生淳和夫夫信紀治洋治幸朗司夫幸展美勝生安夫之明一雄行春徹誠內男勝眞

正 一照 雅壽利都信篤博裕和仲佳 康幸靖浩孝 謙 克重繁 文建昭正好孝 尚豐康和和英正繁 俊通英裕隆眞敏哲清 龜守

口岡井田 永村田本城本垣山保幡野島岡山原岡津島渡 保原村村田子澤田口井上枝本本子根根居本本比城岡本木原上田國村本藤田田

溝松藤箱岡武木西村結松大橫久黃森中中藤橫竹梅福猿 新久保茅中中坂仲戶山田永村重井藤金山山武宮兼日兼善池青馬井福吉中松佐中大小

志一隆行郎也雄昭志浩浩明雄明也実治誠勝恭孝郎修夫雄勤志樹介文亮幸 也教實夫司總憲則文俊達二隆康之光博雄光昭亨治良基治司

貴幸 利泰文博貴哲伸孝文一和拓 政 久守達 志隼 博茂晋博文英 鐵 信 鉄 励 和一昌博英隆英利忠靖義一峰明豊 賢和秀敏博

川原原田原藤山田田中木吹原 瀬田川本梨林田本田 場本村原野南口尻 林野下 田田村西根本木田野尻津中島橋谷田內井野森村下木田本

鳴菽仲久藤佐內植池島佐々矢拜岡永沼黑榎對若池坂山東湯西岡三川角山塩 竹井岡平中山大植竹中川桑折久高沖藤河向福金木山鈴津山

正治則德三治一美儀二男男志美夫澄一 明誠三功人夫法之一倫一司己史一博志正宣明幸薰一幸章孝昭弘学男憲三郎夫孝三人志也佳一之

忠好和孝周潤修義知慎春信仁雅三善榮 輝 慶 秀規正道洋利孝誠勝尚 和廣昭隆正雅 伸和員 敏宣孝和仁榮璋章義隆省一幹政勇光

谷田辺木田岡西山繁中谷見山松田村田 宅邊永原部澤川村免井草田本邊岡野本梨村村原村上西 木本田廣野免永中長口原村戶田內崎

三澤渡佐石吉中石松田兔都熊吉上口戸 三渡松羽岡岡赤色木新笹江石岡山吉小杉木三田牧吉井大山佐々大岡末小新松田常山林西瀬平山山北

生信昭之貢明一之卓男守正之崇明仲茂茂義清道弘央則勉久生 德誠史顯男美和博介德也広保治 男信也治晴人司一信実人強幸司人宏

泰安雅良 敏浩隆 嘉内基高 淵 晃一浩靖展隆 孝光 光 和 康厚利和伸勝美孝光 哲道達眞義正正十庄純康 忠誠常正

本駒本 水出尾岡本垣嶋本本邊脇摩松西邊下原野丸本岡野 林川本田橋達根田本村口本川田 田間谷田田浦谷邊部 木下中 垣

岡南生佐浦清橫中北辻寺川宮山濱森須赤中井松川上勝松寺小 小鴨橋篠大伊山福松中川藏廣綿 原河福竹池岡松大渡武奥荒竹田林北

和夫武寿 法延光次已悟洋健忠幸一幸行二弘一功幸壽也良 司夫則雄博幸五己男二三司七雄男也郎尚光浩治司一三豪 雄義方彦次

容俊 和 重吉秀敏正秀公 義弘英吉雅謙 惠昌德 哲淳 秀八勝英和浩眞昌太耕啓榮惣信寿勝円 喜代 孝壽正清 通高良源啓

水家島田 山 林田澤岡下口 田田元田田田本田田井田 嶋田田平 下谷川林村 尾水崎橋井永部山村田村井井谷 尾江水本房

清古中角 奈 山 追黒小中北西松川西山富金岡太竹辻西里松上西 滋 中原吉奧林木大長小北泉赤清岩高平日磯村杉高北平今大 和歌山 尾江本房

和夫武寿 法延光次已悟洋健忠幸一幸行二弘一功幸壽也良 司夫則雄博幸五己男二三司七雄男也郎尚光浩治司一三豪 雄義方彦次

容俊 和 重吉秀敏正秀公 義弘英吉雅謙 惠昌德 哲淳 秀八勝英和浩眞昌太耕啓榮惣信寿勝円 喜代 孝壽正清 通高良源啓

水家島田 山 林田澤岡下口 田田元田田田本田田井田 嶋田田平 下谷川林村 尾水崎橋井永部山村田村井井谷 尾江水本房

清古中角 奈 山 追黒小中北西松川西山富金岡太竹辻西里松上西 滋 中原吉奧林木大長小北泉赤清岩高平日磯村杉高北平今大 和歌山 尾江本房

和夫武寿 法延光次已悟洋健忠幸一幸行二弘一功幸壽也良 司夫則雄博幸五己男二三司七雄男也郎尚光浩治司一三豪 雄義方彦次

容俊 和 重吉秀敏正秀公 義弘英吉雅謙 惠昌德 哲淳 秀八勝英和浩眞昌太耕啓榮惣信寿勝円 喜代 孝壽正清 通高良源啓

之一利正幸博美次雄治之明則覺也均治吾雄文雄雄和勝晴輝一八守也勇剛男朋知一一一博志勲輔雄男郎也一治喜司見

秀純和光浩光弘英文健博博和道高信悅敏幹輝憲清政正清喜悅誠正一秀裕洋誠良一博亮梅富健誠浩豐和泰

迎橋藤上田田元山村山本谷田原生永藤手田内野村嶋永田田瀨村田戸山木本原山村田口下村藤口藤方野本田田友

渡林高佐池梅牟岡統中西宮大本宮松增加井前山内中川守永富東有佐本大福森宮星入木上野坂中江野江緒棧鶴原森大

樹壽久正則弘典司昌信市典一治博二幸二美晋男馬人均美輔行美信晴雄治樹文生喜貴勝彦学一典清信強浩敏隆志実輝茂一誠輔三忠一司

直昌幸光義吉孝英康初和潤裕良克誠拓登茂久真健善廣政政光榮良博峰和正正公弘美智德正重光勝誠好研雅

代田井田下原地本原橋廣田永本岡田江田口上本尾浦田村岡藤嶋邊村本川本崎田上川井田上杉木田藪塚原川本下田辺中村井木

田春石円山箕宮松宮石友境野岩松岡諸堤福福野山村天松西宇吉森松後小渡吉松岩水森富湖北永原井上佐堤宮京菅幸脇山沼田田澤酒小

正樹己幸規幸生郎三等昭一市美男之一郎夫則三和好貢獻男紀視二之英優志夫也幸弘和浩治学見真巧昭也生一宏保彦和登一馬文德師浩

安秀久孝宏和常伸昇秀祥新厚哲信寿道澄康芳敏保岩春一伸博博高澄龍博伸義利繁朋竜義艶友博照浩正誠竜久善勝高

野藤北藤田尾崎嶋浦野金野垣澤高井川藤野嶋藤田川野藤川川上男野野田宮幡藤井鳥川田田田泉内島中崎田石田崎永本伯上田形部

小佐田呉小岩石中三平荒平綾古日竹市佐河真首神柳川佐嶋香秦池岩高波藤一小衛穴川南豆福池今宗陣福田野浦大原山松坂佐井平小阿

元一弘一孝一啓文典英二健喜治浩広治勇雄男二明一幸三正繁文生已則昭博博吉孝二覚一博治裕晃一利行文昭三和二德憲典也志

一隆幸土和洋秀浩正俊浩貴榮保健善吉俊貞上広繁道盛盛幸四和秀道友勝好浩幸勝篤勝隆信和政孝義省清耕孝正敏美政

川庭川田山代木谷場水尋田家上越井永上野戸田田田塚原本崎上野巢籠藤子田口鳥山藤藤藤野永岡中原田上内光削木本木崎

下大鯉梅平神石熊馬轡八徳古川船藤林末井の城東園岸原大森山蛭井杉鳥田伊兼森溝箴森武近斉梅福池田梶益野竹貞弓佐春勝小

弘行文猛秋一夫治男郎照久義司勉也光則勝学郎治混幸男治男郎宜英章美博則臣博人治宏樹幸也弘利浩治人和徹義孝明輝行

倫孝博忠修義時和勇由隆勝直真浩敏一伸眞倉日孝哲清昌義正重勇智正敏広博竜好常見要徳仁和保孝義敏

本本藤田寺窪田田本本下田藤永井川村尾熊末村元山澤石口庭崎崎永村原端茂下藤山井本尾木田山木根川村田井川下田

山山伊山安濱長崎黒鳥川藤木濱遠富筒中西松每竹竹井柴辻永白谷中瀬串岩永中川野浦山森近秋酒松松荒林藤岡三柿畑前松吉山津

夫吾樹忠透要也隆文通三次積仁吾樹男晃三治茂幸春一彦志明明文樹人生弘一裕敦伸浩久久哉彦道正悟章彦順啓水由勝夫生吉祐幸夫男

一啓建仲信英秀健直清慎英辰和惠英直定正清邦忠秀和雅茂英幸和浩幸和滿克雅広則芳義和知光憲速祝泰康邦卓

本野智智出岡野坂高橋本野波智松能井船田藤倉上上田野脇田本野沼本崎好原宮本上田川岡竹口邊宮崎谷田田村田岡本藤保井野

松矢越越井正矢藤左右松宮仙越竹菅岩入藤後小猪村岩中井永西崎水大塩三福宇藤井梶横西佐山渡岡二大小隅西川原岡片山伊久森松上

知高

福岡

大分

渡佐安

信昭一

財団法人日本消防協会及び 全日本消防人共済会の役員会議の開催

財団法人 日本消防協会

平成25年2月26日（火）、財団法人日本消防協会及び全日本消防人共済会の役員会議が日本消防会館において開催されました。

財団法人日本消防協会役員会議（理事会、代議員会）

平成25年度事業計画、平成25年度予算及び平成25年度都道府県消防協会会費、その他各議案の説明が行われ、原案のとおり決定及び承認されました。

○提出議案等

- | | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1号議案 | 平成25年度事業計画について |
| 第2号議案 | 平成25年度予算について
・普通会計
・特別会計
福祉共済事業特別会計
婦人消防隊員等福祉共済事業特別会計
防火防災訓練災害補償等共済事業特別会計
消防団120年・自治体消防65周年記念事業特別会計
日本消防会館事業特別会計
出版物事業特別会計
消防互助年金事業特別会計
・全国消防殉職者遺族会会計（代議員会のみ） |
| 第3号議案 | 特別会計設置規程の一部改正について
（理事会のみ [代議員会への報告事項]） |
| 第4号議案 | 消防団120年・自治体消防65周年記念事業特別会計設置規程の制定について（理事会のみ [代議員会への報告事項]） |
| 第5号議案 | 平成25年度都道府県消防協会会費について |
| 第6号議案 | 副会長の推薦について |
| 第7号議案 | 日本消防協会消防団員確保対策等委員会委員の委嘱について
（理事会のみ） |

4 協議事項

- (1) 山梨県消防協会への貸付について

5 諸般の報告

- (1) 第21回全国女性消防操法大会の開催及び第24回全国消防操法大会の開催地について
- (2) 第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会の開催及び第20回全国女性消防団員活性化大会の開催地について
- (3) 消防団員活動服検討委員会について
- (4) 消防団員確保のための総合的対策について
- (5) 平成25年度海外消防事情視察等について
- (6) 消防育英会の状況と今後の対応について
- (7) 消防互助年金の改正について
- (8) 公益財団法人への移行認定について
- (9) 特定保険業の認可について
- (10) 消防団120年・自治体消防65周年記念事業について

・諸般の報告のうち、

- (1) 第21回全国女性消防操法大会【平成25年10月17日（木）】の開催地は、神奈川県横浜市「横浜市消防訓練センター」とすること
- (3) 第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会【平成25年10月30日（水）】の開催地は、岐阜県高山市「飛騨・世界生活文化センター」、第20回全国女性消防団員活性化大会の開催地は、千葉県とすること

以上の概要報告がなされました。



理事会 会議風景



代議員会 会議風景

引き続き、全日本消防人共済会の理事会、総代会が開催されました。

全日本消防人共済会（理事会、総代会）

平成25年度事業計画及び収支予算、役員を選任等の各議題の審議が行われ、原案のとおり決定及び承認されました。

○提出議案等

（理事会・総代会）

- 第1号議案 平成25年度事業計画及び収支予算について
- 第2号議案 役員を選任について
- 第3号議案 コンプライアンス等委員会規程等の新設について（理事会のみ）
 〃 役員給与規程及び役員退職手当支給規程の一部改正について
- 第4号議案 理事会規則等の一部改正について（理事会のみ）
- 第5号議案 退団又は退職した組合員の承認基準について（理事会のみ）
- 協議事項 1 「定款」の一部改正について
 2 「役員を選任及び総代の選挙に関する規約」の一部改正について
- 報告事項 総代の補充について
- その他 全日本消防人共済会の運営について

第12回消防団幹部候補中央特別研修結果 について

(財)日本消防協会

男性消防団員の部は2月5日（火）から7日（木）まで、また女性消防団員の部は2月13日（水）から15日（金）までの各3日間、日本消防会館において、第12回消防団幹部候補中央特別研修を開催しました。

この研修は、消防団の幹部候補として活躍が期待される消防団員に対し研修を実施するもので、全国から総勢228名（男性消防団員の部138名、女性消防団員の部90名）が参加しました。

今回は、前回に引き続き東日本大震災の被災地消防団の活動事例紹介、災害情報と

対策、防災対策などの講義のほか、総務省消防庁危機管理センター（男性消防団員の部）や東京消防庁本所都民防災教育センター（女性消防団員の部）を視察し、課題討議では活発な意見交換が行われました。

受講後の感想として、他地域の消防団の取組みがわかって有意義だった、災害時の対応など今後の活動に役立てたいなどの意見が寄せられました。平成25年度も今回の意見を踏まえ、より充実した研修となるよう努力してまいります。

男性消防団員の部 研修風景



講義



課題討議



視察



課題討議発表

女性消防団員の部 研修風景



講義



視察



課題討議発表



課題討議発表

第12回消防団幹部候補中央特別研修 講義科目

【男性消防団員の部】

内 容	講 師
講 話	(財)日本消防協会 会長 秋本 敏文
消防庁危機管理センター視察	総務省消防庁 国民保護・防災部 応急対策室長 高橋 哲郎
防災対策	総務省消防庁 国民保護・防災部 防災課長 山口 英樹
消防団運営	公益財団法人長野県消防協会 参与 五十嵐 幸男
危機管理	Blog防災・危機管理トレーニング 主宰 日野 宗門
活動事例（東日本大震災）	岩手県 大槌町消防団 部長 鈴木 亨
災害情報	静岡大学防災総合センター 副センター長・准教授 牛山 素行
課題討議発表・講評	総務省消防庁 国民保護・防災部防災課 対策官兼消防団専門官 青木 浩
課題討議テーマ <ul style="list-style-type: none"> ・若年層の団員確保対策について ・サラリーマン化が進む中での効果的な活動方策について ・消防団の訓練のあり方について ・消防団活動の問題点と解決策について (大規模災害時の対応について) 	

【女性消防団員の部】

内 容	講 師
講 話	(財)日本消防協会 会長 秋本 敏文
消防団実務	東京防災救急協会 講習指導担当部長 谷口 由美子
東京消防庁 本所都民防災教育センター視察	東京消防庁
消防団運営	公益財団法人長野県消防協会 参与 五十嵐 幸男
防災対策	総務省消防庁 国民保護・防災部防災課 課長補佐 荒山 豊
予 防	在日米海軍司令部地域統合消防隊 予防課課長 長谷川 祐子
話し方講座	東京都 赤羽消防団 副団長 小澤 浩子
課題討議発表・講評	総務省消防庁 国民保護・防災部防災課 対策官兼消防団専門官 青木 浩
課題討議テーマ <ul style="list-style-type: none"> ・女性消防団員の役割について ・女性消防団員の確保対策について ・女性消防団員による新たな消防団活動の展開について 	



「市民が安全で、 安心して暮らせる まちづくり」



杵築市消防団 団長 藤原 勇郎

1. 杵築市の紹介

杵築市は、平成17年10月1日に、旧杵築市・山香町・大田村が市町村合併し、新市としてスタートしました。大分県の北東部「仏の里」として知られる国東半島の南部に位置し、緑豊かな山間地域と、別府湾、伊予灘を臨む風光明媚な海岸地域を併せ持つ、自然風土に恵まれた280km²（南北約23km、東西約29km）の地に約32,000人の市民が暮らしています。

市の中心部は、江戸時代より譜代「松平」氏3万2千石の城下町として栄え、武家屋敷や石畳の坂道など往時の面影を色濃く残した町並みが保存されており、「九州豊後路の小京都 坂道の城下町 杵築」の愛称で皆様に親しまれています。



天神祭

産業においては、豊かな自然環境を活かした農・畜・水産業が昔から盛んなところであると同時に、大分空港と県都の間に位置し、大分空港道路、宇佐別府道路をはじめ県内外を結ぶ道路網の連結点である地理的条件から、多くの企業が立地し、県北国東テクノポリス地域の中核都市として発展を続けています。

2. 杵築市消防団の概要

杵築市消防団は、平成17年10月1日の市町村合併時より連合消防団として活動を行っていましたが、平成20年4月に3方面隊制へ移行し統一団となりました。現在、1本部3方面隊14分団45部で構成されており、団員数は条例定数623名に対して590名で、その内女性消防団員は9名となっています。



住民との放水訓練

運用資機材は、ポンプ自動車3台、小型動力ポンプ付積載車37台、小型動力ポンプ42台を配備し、杵築市全域の防火、防災に万全を期しています。

3. 杵築市消防団の活動

消防団の活動としては、5月から7月にかけて、台風や豪雨などの風水害に備えての防災訓練、また、火災発生時に消火活動が迅速に行えるよう、ホースの延長・放水訓練等を行う操法訓練を実施しています。また、訓練の総仕上げとして、方面隊ごとに操法の技術を競う錬成大会並びに夏季訓練を実施し、各分団の技術・規律の向上に努めています。

春秋の全国火災予防運動では、方面隊ごとに防火パレードによる広報活動を実施し、女性団員も各種イベントへの参加やスーパー等でチラシの配布を通じて、防火に対する啓蒙・啓発に取り組んでいます。

さらに、納涼花火大会における警戒、出初式に向けての秋季訓練、年末夜警、市内には重要文化財も多数あることから、文化財防火訓練にも力を入れています。

最近では、高齢化に伴い一人暮らしのお年寄りが増加していることもあり、いざと



上級救急救命講習

いう時に迅速に対応できるように、消防署の協力のもと多数の団員が上級救命講習を受講しています。

また、東日本大震災を受け、津波被害が想定される海岸線に位置する行政区を中心に、避難訓練等が実施されるようになり、消防団としても訓練に参画し、避難誘導や住民との放水訓練等を行い訓練の一翼を担っています。

4. 終わりに

近年、一昨年の中日本大震災や昨年の九州北部豪雨に見られるように、予想もできないような自然災害が発生しています。今後、何時発生するかわからない豪雨災害、南海トラフ地震等の巨大地震や、それに伴う津波被害が懸念されている中、消防団の役割は益々大きくなっています。

残念ながら杵築市消防団でも全国的な情勢と変わらず、団員の高齢化、若者の地元定住の減少やサラリーマン化等、団員確保に苦労しているところですが、団員のひとり一人が防災減災の知識を高め、地域防災の核として、行政、自主防災組織、関係機関と連携を図り、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します。



女性団員チラシ配布



「地域に密着した活動と 安全・安心のまちづくり」



輪之内町消防団 団長 森島 徹也

1. 輪之内町の紹介

輪之内町は、岐阜県の西南濃に位置し、総面積は22.36㎡、町の周囲は、濃尾平野を南北に流れる木曾三川のうち揖斐川・長良川の2河川に挟まれた輪中地帯にあり、町の周囲全体を輪中堤が取り囲んでいる肥沃な田園地帯です。

この輪中堤については、1753年（宝暦3年）に江戸幕府が薩摩藩に対して木曾・長良・揖斐の三川分流の御手伝普請を命じて作らせたもので、南隣にある海津市の油島締切り工事とともに当町の大樽川洗堰工事では多くの犠牲者を出すなど、歴史の中に水との闘いのある町であります。

現在の輪之内町は、昭和29年の市町村合併促進法により、仁木村・福東村・大藪町が合併して発足したもので、現在第5次総合計画に基づき『住んで良かった、これからはずっと住み続けたいまち』を目指し、町づくりが進められているところであります。

特産品としては懸崖菊けんがいぎくがあり、その生産シェアは60%以上を占めており、全国一を誇っています。



輪之内町ゆるキャラ「かわばたくん・もろこちゃん」



平成25年消防出初式

2. 消防団の概要

輪之内町消防団は平成24年4月1日現在、3分団11班で構成されており、団員は97名で運用資材は消防ポンプ自動車3台、小型動力ポンプ付積載車7台を配備し、輪之内町の安全・安心の確保に日夜努めています。



平成24年度輪之内町総合防災訓練（水防訓練）

3. 輪之内町消防団の活動

輪之内町消防団では、入退団式に始まり、初任者や初級幹部に対する訓練のほか、年間3回の機動演習や9月、10月に実施する規律

訓練を通し、団員ひとりひとりの技術の研鑽と資質向上を図っています。先述の規律訓練については、昭和52年から実施している大変伝統あるものです。

この昭和52年の前年、昭和51年に「9・12災害」が発生し、輪之内町でも甚大な被害が発生しました。この災害の際、災害現場での指揮命令系統について、いかに正確、かつ迅速に徹底させるかは、やはり平素からの「訓練」と「規律」が重要であるとの認識から始められた大会です。

また、輪之内町が水害の発生する危険性の高い立地条件にあり、消防団員が水防団を兼務していることから、毎年水防訓練を実施するほか、国土交通省所有の災害対策機材の操作訓練である『大樽川緊急排水訓練』に参加し、近年多発しているゲリラ豪雨等による災害などに迅速に対応できる体制づくりを図っています。



輪之内ふれあいフェスタ消防・防災コーナー

日々の訓練に加え、毎年実施される町主催の総合防災訓練では町民の皆さんに対し、水防工法をはじめ応急手当法、倒壊家屋からの救出方法の講習を行っています。加えて、毎年町で開催される『輪之内ふれあいフェスタ』には消防・防災コーナーを出展し、町民の皆さんに消防団を身近なものとして感じて頂くとともに、火災予防や災害時の自助実践の大切さを啓発しています。

そのほかにも町行事には積極的に参加・協力し、消防団活動のPRを行っています。



第36回消防団特別検閲及び規律訓練大会

4. おわりに

近年、生活様式の変化により、消防団員の確保も難しくなっています。幸いにして輪之内町消防団においては定数である97名を確保できているものの、輪之内町外等の企業に勤めているいわゆるサラリーマン団員が9割近くを占めており、平日昼間の火災・災害に対する対応に苦慮しているところです。

そのため、地域の方々との「協働」を通し、火災時に常備消防や消防団が現場に到着するまでの初期消火活動や、災害時に救助・救援が行き届くまでの間、「自分の身は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守る」という自助意識の高揚を、地域と密着した活動を展開し図っていきたくと考えております。

今後もさらなる安全・安心のまちづくりを目指し、団員皆一丸となり邁進していきます。



平成24年度消防団火災防ぎょ訓練



「東日本大震災の教訓を生かす」



香南市吉川消防団 団長 中元 則夫

1 香南市の紹介

香南市は、高知市の東部約20～30kmに位置し、平成18年3月1日に香南地域5ヶ町村（野市町、香我美町、夜須町、赤岡町、吉川村）が合併し、東西約20km、南北約15km、面積126.51km²、人口約34,000人の市として誕生しました。

南部地域は太平洋に面する海岸部と肥沃な平野部、中部地域は低山が連なる中での里山環境、北部地域は標高300～600mの四国山地の一部を構成しています。また、四国山地を源流にする物部川、香宗川、夜須川などが流れ豊かな水と緑に包まれた地域です。

温暖な気候を利用し、古くから野菜の早出し栽培に取り組み、ハウス栽培を中心とした野菜園芸が発展しております。また毎年4月末に日本酒（男性1升、女性5合）の飲みっぷりと早さを競う「どろめ祭り」が開催され、県内外からたくさんの方々に、ご来場いただき高知の酒文化を楽しんでいただいております。



どろめ祭り（大杯飲み）



ワークショップ

土佐の「いごっそう（頑固者）」と「はちきん（男まさり）」を地でいくような人が多く、活発で義理人情に厚く、明るく元気な町を形成しております。

2 香南市吉川消防団の概要

香南市吉川消防団は昭和5年消防組として発足し、時代の変化とともに警防団、消防団と名称を変更し現在に至っています。また平成18年の町村合併に際して消防団の統合の協議も行いましたが、諸事情により当面は合併前の5つの消防団体制で活動を継続することとなり現在、香南市吉川消防団は、団員25名、ポンプ車1台、小型動力ポンプ付積載車1台の小さい消防団ながら地域住民の期待に応えるよう少数精鋭で頑張っております。

3 消防団の活動

平成23年3月11日 私は東日本大震



防災訓練

災の凄まじい光景をテレビで目のあたりにしました。その後続々と報道される情報の中で、水門閉鎖や避難誘導等の活動中に津波に遭遇し多くの消防団員が犠牲になられたことを知りました。

私たちの香南市吉川消防団も管轄地域に海岸線を有しており南海地震の発生が危惧される中、その対策も講じていましたが東日本大震災クラス地震が発生すればその対策も無意味であり根本から見直さなければならないと痛感しました。

そこで消防本部に協力を求め消防団震災対応マニュアルを作成することにしました。香南市の5つの消防団の中には香南市吉川消防団と同じように津波の被害が想定される地域のほか、中山間地域で孤立することが想定される地域もあることから各地域の実情に適した各消防団・分団特有のマニュアルにするとともに、「自分の命・家族の命を守ることを最優先とした行動を原則とする」とし団員の安全の確保を明記しました。

マニュアルは震災発生時の行動と平常時の対策に分けて記述しており、平常時の対策として消防団図上訓練(DIG)を実施しています。団員にとっては住み慣れた地域ではありますが、もう一度自分の町の「自然条件、構造またどんな人たちが住んでいるのか?」「どういうリスクが潜んでいるのか?」を再確認して

もらい、震災時を想像しながら自分の避難ルート、集結場所の決定、災害時要援護者の状況などを地図上に書き込んでいきました。そのうえで、完成した地図を見ながら団員同士で意見交換や、アイデアを出しあいながら地震発生直後の行動、要援護者に対してどのような対策がとれるかなどを検討しました。またその地図を市主催の自主防災組織や町内会の方たちが集まり津波避難対策を検討するワークショップに持ち込み地域住民と一緒に各地区的避難対策、要援護者対策を検討しました。

市総合防災訓練では図上訓練を元に要援護者の方たちにも参加してもらい実際に避難訓練を実施し、図上訓練との違いや、様々な課題が浮き彫りになりました。

4 おわりに

香南市吉川町は、南海トラフ巨大地震により最悪の場合30cmの津波到達時間が10~20分、最大浸水深は10~15mと想定されております。

このような過酷な想定の中、「私たち消防団にできることはなんだろう?」「団員の安全を確保しつつ最大の効果を発揮するには何を、どのようにすべきか?」などを団員全員で考え、訓練等で洗い出された課題を一つずつ解決していき、地域の安心安全の確保に少しでも力になれるよう精進していくつもりです。



避難訓練



シンフォニー（山形県）

「予防消防」

舟形町女性消防団 予防班 班長
曾根田 真利子

「火点は前方の標的、水利は右側後方防火水槽、手広目による二重巻きホース一線延長」「定位につけ」「操作始め！」の号令で女性消防団員による操法がはじまりました。

舟形町操法大会の休憩時間にデモンストラーションとして出させていただいたのです。「私たちも操法やってみようか」軽い気持ちで話ができました。「やれる?」「やってみようか」「やりたい!」それから、南支署長はじめ消防職員の方々からきびしく指導していただき、操法当日を迎えました。緊張の中、それでも今までで一番のながれ

で進める事ができ、選手はもとより一緒に練習に参加した団員も、素晴らしい感動を得ることができました。やろうと思って努力すれば結果がついてくることを実感できた大会でした。

平成11年12月に発足し、ただいま15名で活動しています。20代から50代まで年代のはばこそあれ和気あいあいと、予防班、救護班、広報班と3班に分かれて、それぞれが考えて活動しています。

予防班は、主に保育所を訪問し、火災や地震に関する紙芝居やクイズなどを通し、子供達への防火をよびかけています。

救護班は、夏季非常召集訓練、町総合防災訓練時に初期消火の指導（消火器の使い方、種類、使用期限などの情報）を地区民の方々に知らせる活動をしています。

広報班は、消防活動すべての情報を広報誌に載せ、年2回発刊しています。又、春秋の火災予防週間には、防火キャラバンの先頭車に乗り防火広報を呼びかけます。



操法大会時の一コマ

それぞれの班活動の他に、AEDの講習会の開催や月2回の防火広報なども行っています。

震災時はボランティアにも数名が参加し、生々しい傷跡を目にし、何ひとつ役に立てない私たちに、「この場所に来て、この現状を見てもらえただけでいいんです。本当にわざわざありがとうございます」と感謝の言葉をかけていただきました。胸が詰まりました。

私達に何ができるんだろう、何をすればいいのだろう、まだまだ考えて行動すべきことがたくさんあるような気がしています。

わが町は、山形県の北東部に位置し、新庄市と尾花沢市に挟まれた、若あゆ踊る清流小国川、風光明媚「神秘の出羽三山」パノラマを独り占めできる「若あゆ温泉」、一度願えば二度叶う、縁結び・子宝祈願の「猿羽根山地蔵尊」、四季を通して美しさを



保育園の避難訓練の一コマ

誇る大自然を満喫できる舟形町。

昨年9月には、平成4年に西の前遺跡から出土した「縄文の女神」が正式に「国宝」に指定されるなどうれしい報告が届きました。舟形町女性消防団「ファイヤービーナス」も縄文の女神から名付けました。

このすばらしい地域を火災から守るため、これからも予防消防につとめていきたいと思っています。



少年消防クラブ指導者研修会を開催

少年消防クラブ活性化推進会議

少年消防クラブ活性化推進会議（事務局：財日本消防協会及び財日本防火協会）では、2月10日（日）及び11日（月）の2日間、モデル少年消防クラブの指導者を対象に「少年消防クラブ指導者研修会」を東京都内で開催しました。

本研修会には、全国のモデル少年消防クラブ指導者約70名が参加し、モデル少年消防クラブ実態調査の結果や、少年消防クラブ交流会の開催結果報告に加え、太陽わらべ太鼓少年消防クラブ、青梅消防少年団、下田少年消防クラブ、高瀬少年消防クラブの4クラブから活動事例発表が行われました。また、これらの発表を踏まえ、少年消防クラブの直面する課題、現状と今後の取組などが班別に別れて意見交換されました。

これら研修会で得られた成果をそれぞれの地域に持ち帰っていただき、今後の少年消防クラブ運営や活動の一層の充実が図られることを期待しています。

【概要】

1、2月10日（日）

活性化推進会議秋本委員長の主催者挨拶、消防庁山口防災課長及び文部科学省学校健康教育課河村課長補佐の挨拶後、事務局から昨年実施した「モデル少年消防クラブの実態調査」の結果と、岩手県で開催された「少年消防クラブ交流会」の概要及び結果を報告、「モデルクラブ活動の総括と今後のあり方について」と題して4クラブからの活動事例発表が行われました。



秋本活性化推進会議委員長



消防庁山口防災課長



文部科学省河村課長補佐

○活動事例発表

- (1) 太陽わらべ太鼓少年消防クラブ（北海道北見市）発表者：山内克也 氏
- (2) 青梅消防少年団（東京都青梅市）発表者：星野誠二 氏
- (3) 下田少年消防クラブ（高知県四万十市）発表者：浅尾 拓 氏
- (4) 高瀬少年消防クラブ（大分県日田市）発表者：森澤 駿 氏



山内 克也 氏



星野 誠二 氏



浅尾 拓 氏



森澤 駿 氏

2、2月11日（月）

出席者をA、B、C、Dの4班に分け、

「少年消防クラブの実践的活動を推進する上での現状と今後の課題」

「クラブ員の興味、関心、参加意欲を高めるための取組の現状と課題」

「クラブ員の確保について」

「消防本部、消防団との連携協力の現状と課題」

をテーマに意見交換会を実施し、各班から出された意見や討議内容について発表がなされました。

○A班

坂祝中学校少年消防クラブ（岐阜県加茂郡坂祝町）発表者：松田 誠 氏

○B班

山崎少年消防クラブ（長崎県壱岐市）発表者：江口正弘 氏

○C班

下曾根少年消防クラブ（福岡県北九州市）発表者：藤川一俊 氏

○D班

伏古本町ひまわり少年消防クラブ（北海道札幌市）発表者：池本 章 氏



松田 誠 氏



江口 正弘 氏



藤川 一俊 氏



池本 章 氏

なお、活動事例発表、意見発表の詳しい内容につきましては、少年消防クラブニュース冬季号（第12号）に掲載予定です。

『災害には油断は禁物』 ～ハリケーン・サンディで感じたこと～

(財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 今川 勝之

1 ニューヨークを襲った『スーパーストーム』

全米の死者合計130人以上、被害総額約4兆円以上。

2012年10月29日にニューヨーク州、ニュージャージー州を含むアメリカ東海岸地区に大きな被害をもたらした「スーパーストーム」と呼ばれるハリケーン・サンディ。私もニューヨーク市マンハッタン所在の勤務地及びニュージャージー州の自宅が約1週間近く停電するという経験をした直接の被災者の一人でもある。

私は2011年8月にもハリケーン・アイリーンを経験した。この時は直接の被害を受けることはなかったのだが、この2つのハリケーンを経験し、今回のサンディとアイリーンに対するニューヨーク市民の心構えの違いについて感じたことを述べたいと思う。



完全に破壊された海岸の遊歩道

2 州・市政府や各機関は事前に綿密な対策を実施

2つのハリケーンを体験し、最も感じたことは、アイリーンの時はしっかり身構えたが、サンディの時は若干油断したということである。

これはもちろん、ニューヨーク市や州政府がハリケーン対策の手を抜いたという意味ではないし、その他の各自治体や各団体も同様である。

いずれのハリケーンが来る際にも危険が予想される道路の封鎖予定状況、住民への食料、水等の確保の必要性、川の増水に備え川沿いに居住している住民への避難勧告等が録音されたメッセージが自治体の災害対策本部から各戸の固定電話宛に前日から当日昼にかけて少なくとも2、3回はかかってきていた。

さらにニューヨーク市はテレビのニュースや市のホームページ上でハリケーンの予想進路を示し、地図を用いて住民に分かりやすい形で避難指定区域(ゾーンA)を指示した。ゾーンA地区にはパトカーや各機関の車両が巡回し、避難を促すなど相当な措置も取られたのである。もちろん避難地区に住む住民には、それぞれ指定の避難場所が用意され、一晩過ごすために十分な量の毛布や食料等が確保されていた。

にもかかわらず今回のハリケーン・サンディでは多くの人的、物的な被害が出てしまった。

3 日本とニューヨークの災害への心構えの違い

ここで日本とアメリカ、特にニューヨーク市等の東海岸地区の災害対策の根本的な違いについて述べておきたい。

これこそ「災害に対する心構えの違い」と言ってもいいかもしれないが、その大きな違いとは、「突然の災害への心構え」と「ジワジワとくる災害への心構え」である。これは端的に言えば地震の有無の違いからくる。

アメリカ東海岸には地震はほとんど無い。その地区に住む住人にとって「災害」と言えばハリケーンや大雪といったものによって引き起こされるというイメージが強い。

地震はいつ、どこで、どのくらいの規模で起きるか分からない。この地震に備える心構えとハリケーンに対する備えとは天と地ほどの差がある。つまり、ハリケーンや大雪は気象予測によってかなりの確率で進路や規模を予測することができ、それに対処する時間も取ることが出来る。

時間の猶予があるということは対策を立てる際には非常に大きなアドバンテージとなる。今回もニューヨーク州、ニュージャージー州共に知事名で前日から「緊急事態宣言」を発令し、公共交通機関を事前にストップ、市民に対して予め避難命令を出していたのである。

特にニューヨーク市は2010年12月に大雪に見舞われた際、道路の除雪作業が遅れ、交通が完全に麻痺したことがある。その非難はブルームバーグ・ニューヨーク市長に集中した。それ以来ブルームバーグ市長は災害に対し、早め早めの対策を実施するようになり、アイリーンの時も今回のサンディも事前の対策は怠らなかったのである。

しかし、この時間に余裕があるというアドバンテージも時には、一般市民にとっては逆

に作用することもある。「まだまだ、時間に余裕があるのだから直前になったら避難したり、対策をすればいいよ」という気持ちである。

こういった気持ちがあり、気がついたら手遅れになっていたということも実際に発生している。その証拠に前年のアイリーンの際に被害をほとんど受けなかったゾーンAの住民は、今回のサンディの際も避難をしなかった住民が多かった。

そのような住民に対して今回テレビ局がインタビューをしている映像がニュースで流れていたが、インタビューを受けている住人が一様に「去年のアイリーンで大丈夫だったから、今回も平気だよ」と言っていたのである。

4 災害への甘い予測は禁物

サンディで大きな被害が発生した原因については、ハリケーンの規模が大きかったという点に尽きるのだが、先ほども述べたように、それは事前に予測ができていた。専門家や研究者たちはこのハリケーンの進路や規模を予測して警報を出しているが、問題はそれが一般市民にはいまいちピンとこないという点である。つまり「あなたの家の場合、床上まで浸水します」、「突風で屋根が吹き飛びます」等と具体的に言われたい限り、そういった警報を見ても、過去の自分の経験と照らしあわせて、『あの時こうだったから、今回もこうでいいだろう』という甘い判断を住民はしがちなのである。

もちろん、ハリケーンが差し迫ってくる中で専門家が家を一軒一軒回って被害予測の診断することもできないし、専門家であってもそこまでの予測を求めるのは不可能であろう。

ニューヨーク市はアイリーンの際と同じ様に避難区域を設定し、当該区域に住んでいる住民に避難命令を出した。

しかしながらアイリーンの時、予想していたよりもハリケーンの規模が小さく、被害も少なかった。この経験が災いしてしまったのである。

「去年のアイリーンで大したことがなかったから今回も多分大丈夫だよ」

こういった雰囲気はニューヨーク中に漂っていたのは間違いない。

住民ばかりではない。電気や水道などのライフライン会社も油断していた部分があるだろう。サンディの襲来後、ニューヨーク州内の多くの地区で長期間の停電が続き、電力会社のトップが責任を取り、辞任するという事態にもなった。

今回のハリケーンは過去の教訓を生かせなかった典型的な例であろう。

5 災害の啓発活動はバランスが重要

災害に対しては国や都道府県、市区町村の担当部署や消防、警察だけが備えておけばいいというものではない。

現実には被害を受けるのは住民である。避難をする主体も住民である。つまり、住民に対し災害対策をどれだけ日頃から啓発しておけるかが、最も重要なことである。

啓発について各機関はあらゆる努力をする必要がある。マスコミやソーシャルメディア



基礎を失い傾く住居

等を利用していくことも重要であろう。

だが、ここで重要なのは啓発活動については住民に「いたずらに不安を煽る」ものであってはならないということである。

と言っても「……ですが、何が起こっても全く何の問題もありませんのでお気楽にお過ごしください」というようなイメージを最終的に住民に持たれても意味が無い。

ここで「杞憂」と「備えあれば憂いなし」のバランスをとることが最も重要なのである。

ここに面白い数字がある。ニューヨーク市民を対象に定期的世論調査を行なっているクニピアク大学（Quinnipiac University）がハリケーン・サンディ後の11月20日に発表した世論調査の結果である。

質問の中で「ハリケーン・サンディへの対策を指揮した指導者で最も優秀だったのは誰か？」というものがあり、結果はクリスティー・ニュージャージー州知事36%、オバマ大統領22%、クオモ・ニューヨーク州知事15%、ブルームバーグ・ニューヨーク市長12%、その他15%と一番評価されたのは、なんとニューヨーク市のお隣ニュージャージー州の知事だったのである。

私自身、ニュージャージー州で1週間の停電を経験している者にとっては、ニューヨーク市長やニューヨーク州知事がニュージャージー州知事の対処に比べ、殊更劣っているとは全く感じなかったのであるが、やはり「隣の芝生は青い」という諺どおり、自分達が苦労している時は隣の人の方が楽をしているように見えてしまうのは世の常のようである。

都道府県消防協会事務局長会議の開催と 第21回全国女性消防操法大会の抽選会を実施

財団法人 日本消防協会

平成25年2月19日（火）、午後1時30分から日本消防会館5階大会議室において、都道府県事務局長会議が開催されました。

会議は、秋本会長のあいさつのあと、総務省消防庁 室田総務課長より、平成24年度消防庁補正予算（案）並びに平成25年度の当初予算（案）の概要等について説明がありました。

続いて各部から平成25年度事業の説明がありました。



秋本会長あいさつ



第21回全国女性消防操法大会出場順位抽選会

会議終了後、平成25年度に実施されます第21回全国女性消防操法大会の出場順位の抽選会が行われました。

抽選結果は、以下のとおりです。

第21回全国女性消防操法大会 出場順

コース 出場順	第1コース (本部席側)	第2コース (応援席側)
1	広島県	愛知県
2	福井県	沖縄県
3	滋賀県	東京都
4	香川県	茨城県
5	山口県	山形県
6	新潟県	岐阜県
7	奈良県	富山県
8	鹿児島県	千葉県
9	愛媛県	熊本県
10	神奈川県	秋田県
11	京都府	長野県
12	石川県	福岡県
13	和歌山県	埼玉県
14	大阪府	群馬県
15	福島県	徳島県
16	鳥取県	三重県
17	大分県	栃木県
18	宮崎県	山梨県
19	静岡県	佐賀県
20	長崎県	岩手県
21	岡山県	北海道
22	青森県	島根県
23	宮城県	兵庫県
24	高知県	

第28回中国消防事情調査について

(財)日本消防協会

中国消防事情調査につきましては、昭和60年に締結した「日中消防協会友好関係結成協定」を受けて、毎年調査団が訪中し、中国各地の消防機関を視察するとともに、熱烈な歓迎を受け、参加者には好評を博しております。

第28回中国消防事情調査においては、下記のとおり成都市、九寨溝県、青島市の視察を予定しており、多くの方々に参加していただけるよう、現在参加者を募集しております。

記

1 目的

中国各地の消防機関を訪問し、日中両国消防の交流を深めるとともに、中国消防体制・制度等についての見聞を広めることを目的とします。

2 参加者資格

各都道府県消防協会役職員、消防団幹部（退職者を含む）、消防職員幹部（司令補以上、退職者を含む）及び消防団事務担当者等で健康な方。

3 訪問先消防機関等

- ※ 成都市、九寨溝県、青島市で消防事情調査を行う予定です。
- ※ 3都市（県）では中国の消防幹部との意見交換会等を予定しております。
- ※ 中国国内の行動に関しましては、中国消防協会の協力により、同協会の全面的な便宜供与を受けることとしております。

4 期間

平成25年5月29日（水）～6月5日（水）まで（7泊8日）

5 経費

総 経 費	253,322円
-------	----------

- ※ 中国滞在中の食費及び調査先の入場料等の諸経費は含まれています。
- ※ 調査期間中、一人部屋を希望される方は、追加料金として45,397円が必要です。
- ※ 中国国内線ビジネスクラスを希望される方は、追加料金として89,815円が必要です。
- ※ 上記料金は現在の為替水準で計算したものであり、今後の為替の変化によっては、上記料金を変更する場合があります。
- ※ 国際線ビジネスクラスを希望される方は、追加料金として145,000円が必要です。
なお、経費につきましては、申込締切り後に当協会から請求いたします。

※ 海外旅行保険加入については担当旅行業者から案内いたします。

(例 69歳以下 傷害死亡・後遺症1億円 8日間 保険料12,150円)

6 申込方法と期限

参加申込書を各都道府県消防協会でお取りまとめいただき、4月18日(木)までに当協会へ提出して下さい。

なお、普段から健康のすぐれない方は、事前に医師とご相談の上、お申込み下さい。

また、参加者が無い場合でも文書(メールを含む)又は電話にてご回答下さい。

7 事情調査の性格上、各任命権者において出張扱いとされるようご配慮をお願いいたします。

8 取扱旅行業者(前後泊、日本国内航空券、海外旅行保険、成田集合案内等)

株式会社日本クリエイティブ 旅行部

TEL:03-3501-6311 FAX:03-3501-6301 山口・桑原

9 財団法人 日本消防協会 国際部 担当 福地

TEL 03-3503-3054 FAX 03-3503-1480 E-mail: fukuchi@nissho.or.jp

※ 申込書また行程における詳しい情報については、後日に日本消防協会のホームページ(<http://www.nissho.or.jp>)にて掲載予定です。

10 日本国内宿泊等の斡旋

参加申込者には、申込締切り後に旅行業者から次の斡旋について連絡がありますので、必要な方はお申込み下さい。

(1) 前後泊ホテル ホテル日航成田

(2) 宿泊料金シングルルーム1泊(朝食・税・サービス込) 7,500円

11 日本国内線乗り継ぎ

日本国内線の乗継ぎについては、各自のご手配又は上記担当旅行業者へのご相談をお願いします。

※ 出発日の伊丹—成田国内航空券は担当旅行業者より6,500円にて手配致します。

12 その他

(1) 事情により調査日程等に変更が生じた場合は、別途通知いたします。

(2) 日程については、別紙を参照下さい。

(3) 航空券・ホテル予約のため、参加申込書の提出の際に併せて旅券(パスポート)の写しを集めさせていただきます。

(4) 旅行日当日は、成田空港第1ターミナルビルに15時00分までにご集合していただくことを予定しています。なお、詳細につきましては、後日ご連絡させていただきます。

(5) キャンセルの場合の取消料

出発日の30日前より~3日前迄

旅行費用の20%

出発日の前日迄

旅行費用の50%

出発日当日

旅行費用の全額

第28回中国消防事情調査日程（案）

	日 期	時 間	摘 要	宿 泊
1	5月29日 (水)	15:00 17:35 22:30	成田空港集合 NH947 成田発 成都着	成都 2泊
2	5月30日 (木)	午前 午後 18:00	成都市消防視察 パンダ繁殖センター視察 日系企業 四川モリタ消防装備製造有限公司視察 (成都市温江区“成都海峡两岸科技园”新華大道一段八号) 四川省消防協会歓迎交流会	
3	5月31日 (金)	10:30 11:20 午後	MU5863便 成都発 九寨溝着 九寨溝消防視察・交流	九寨溝 2泊
4	6月1日 (土)	終日	終日 九寨溝風景区【世界自然文化遺産】視察 専用車にて九寨溝入り口へ。着後、現地観光の貸切バス に乗り換え、中で観光ポイントをご案内： 樹正溝（樹正群海と古磨房，樹正滝） 日則溝－「西遊記」の撮影地－珍珠灘 則查洼溝－美しい長海。他、鏡海、五花海、五彩池等	
5	6月2日 (日)	09:30 12:10 13:00 16:05 18:25	ホテル出発、空港へ MU5864便にて、九寨溝発 成都着後、空港内にて昼食 MU5448便にて、成都発 青島着	青島 3泊
6	6月3日 (月)	午前 午後	海上名山第一労山 道教の聖地である「太清宮」、「龍潭瀑」 青島市内観光：旧市街を展望する「小魚山公園」、ドイ ツ式の教会「キリスト教会」、1908年に出来たドイツ式 建築、ドイツ総督府であった「迎賓館」、青島のシンボ ルである「栈橋」、中山路商店街 山東省消防協会歓迎交流会	
7	6月4日 (火)	午前 午後	青島市消防視察 青島市内視察：20以上もの国々の建築様式が見られ、「万 国建築博覧区」とも言われる「八大関風景区」、出来立 てのビールが試飲できる「青島ビール工場・博物館」、 中国第一銅塔「テレビ塔」、日系スーパージャスコにて ショッピング	
8	6月5日 (水)	午前 13:40 17:35 14:00 17:25	市内視察：市役所前の広場「五四広場」、2008年北京オリ ンピックヨットの会場であった「ヨット基地」散策後、 空港へ、空路にて帰国 NH928全日空便 青島発 東京（成田）着 NH158全日空便 青島発 大阪（関西）着	

消防研究センター等の一般公開のお知らせ

消防研究センター

消防大学校・消防研究センター、日本消防検定協会及び(財)消防科学総合センターでは、平成25年度の科学技術週間にあたり、一般の方々に当敷地内において試験研究施設を公開するとともに、消防用機械器具・消防防災の科学技術に関する研究の展示、実演等を下記の通り行いますので、皆様お誘い合わせの上、ご来場下さいませようお願い申し上げます。

1. 日時

平成25年4月19日（金）
午前10時から午後4時まで
入場無料

2. 場所

消防大学校・消防研究センター
（調布市深大寺東町4-35-3）
日本消防検定協会
（調布市深大寺東町4-35-16）
※（同一敷地内にあります。）

3. 公開内容

【消防大学校・消防研究センター】

石油タンク火災の泡消火実験、大規模災害時の対応支援情報システム、液体燃料（軽油）の燃焼実験、可燃性液体火災の消火実験、原因調査室の調査業務の展示、津波被害現場用の消防車両の開発等、研究・業務内容の紹介、および消防車両等の展示

【日本消防検定協会】

住宅用火災警報器の展示・消火器の操作体験、エアゾール式簡易消火具による天ぷら鍋の火災の消火実演等

【消防科学総合センター】

消防防災GIS、消防防災博物館、石油コンピナート防災アセスメント、消防力適正配置調査、災害写真データベース等業務内容の紹介

4. 交通機関

- (1) JR中央線吉祥寺駅南口下車、「深大寺」「野ヶ谷」「調布駅北口」行きバス（6番乗り場）で「消防大学前」下車
- (2) JR中央線三鷹駅南口下車、「野ヶ谷」行きバス（8番乗り場）で「消防大学前」下車
- (3) 京王線調布駅北口下車「杏林大学病院」行きバス（14番乗り場）で「東町3丁目」下車、徒歩5分

問い合わせ先

- 消防研究センター 研究企画室
電話 0422-44-8331（代表）
ホームページ <http://www.fri.go.jp>
- 日本消防検定協会 企画研究部情報管理課
電話 0422-44-7471（代表）
ホームページ <http://www.jfeii.or.jp>
- 消防科学総合センター 総務課
電話 0422-49-1113（代表）
ホームページ <http://www.isad.or.jp>



可燃性液体火災の消火実験



消防車両の展示

うちの

名物団員



高知県



高知市消防団 南部分団 団員

中屋 生依

高知県立大学（看護学部・看護学科）に通う現役大学生の中屋生依さんは、日頃から消防団活動をしながら『高知市消防団はしご隊』に所属し、花形である数少ない乗り手の中で、女性としてはただ一人、

男性の中に交じり活躍しています。

入団した初めての出初式で『古式はしご操法』を見てあこがれ入隊し、今年で3度目の乗り手となりました。

大学1回生のとき、「私ができることでなにか地域のために役に立ちたい」と入団した中屋さん。この春からは看護師の道に進み、社会人となってますます活躍が期待されます。



茨城県



鉾田市消防団 徳宿地区選任分団長 兼 秋山分団長

市村 知一

平成7年に入団し、勤続18年の鉾田市消防団徳宿地区選任分団長兼秋山分団長の市村知一さんを紹介します。市村さんは、普段、鉾田市という日本で一番のメロン産地で、現在「イバラキング」というメロンを生産しています。「イバラキング」を多くの方に食べてもらい、「おいしい」と言ってもらいたい、奥様と一緒に、赤ちゃんを育てるように愛情を持って育てているとの

ことです。

また、18年間の消防団員としての活動を通して、秋山分団の消防団員だけでなく地元の方々からも信頼を得ています。現在は、徳宿地区の消防団をまとめる選任分団長として、地元の方々や分団員と協力して、消防活動や防火意識の啓発にあたっています。



茅野 博

平成9年に市消防団ラップ隊初代隊長に就任。演奏指導に力を注ぎながら、現在も消防団員として活躍する茅野さん。印刷業を営む傍ら、新庄チンドン団としても大黒様に扮して各種イベントの余興や介護施設などへの奉仕活動で多くの市民から親しまれています。

音楽好きの茅野さんは、「新庄味覚祭り」のテーマソングを作曲するなど、多才な活動で新庄をにぎわすユニークな団員です。



室田 憲一

「歴史と文化と花のまち」足利市からは、分団長の室田憲一さんを紹介しします。

地域の安全・安心を守るため、日夜献身的な活動を続ける室田さんは、

トルコギキョウの栽培においても、若き農業の牽引者として活動されています。

現在では、トルコギキョウの栽培を学びたいと、消防団関係者から7名の新規就農者が誕生し、勉

強会や視察等を通じ技術研鑽に取り組んでいます。

また、JA足利花き部会副部長、足利市経済活性化諮問会議委員を務める等、地域産業の振興にも尽力されています。



吉田 栄治

「童話の里」玖珠町からは、吉田栄治さんを紹介しします。吉田さんは、豊後森駅前通りで家業の日本料理店を経営され、忙しい毎日を送っています。

お店の近くには、所属する部の詰所があり、火災が発生すると真っ先に詰所に駆けつけ、率先して消火活動にあたります。今年は、第12回消防団幹部候補中央特別研修に大分県を代表して参加し

ました。今後も、消防団や地域の防災リーダーとしての活躍が期待されます。

※お店のHP <http://www.kusu-tomi.net/>

消防団の広場

茨城県



小美玉市消防団
団長

長島 正文



「うるおいのある安全・安心なまち」

小美玉市「人が輝く水と緑の交流都市」は、茨城県のほぼ中央部に位置し、西に筑波山を望み、南は霞ヶ浦に接し、起伏も少なくほぼ平坦で美しい自然環境に恵まれた気候温暖な地域です。

東京都心からは、約80kmの距離にあり、道路交通網も整備され常磐自動車道・東関東自動車道・北関東自動車道へのアクセスもよく交通条件にも恵まれています。また、「首都圏第3の空港」として、国内線は札幌、神戸、那覇へ、さらに国際線は上海便が就航しています。

とくに、LCC（ローコストキャリア）の就航により格安で、気軽に空の旅を楽しめる空港です。

茨城空港は全国98番目の空港として、2010年3月11日に開港しました。

1年でおよそ100万人の来場者があり、航空自衛隊

百里基地を民間共用化した空港ですので、平日は自衛隊機の離発着を見ることができ、また、土日には物産展などのイベントによりターミナルビルは多くの来場者で賑わっています。

ターミナルビルは国内線・国際線の両方に対応した旅客ターミナルビルとしては、日本で最も小さな規模のコンパクトなビルです。駐車場は1,300台分ご用意し、何日停めても無料です。是非、ご来場ください。

小美玉市消防団は、1団本部、19分団で組織され、平成24年4月1日現在、580名の消防団で構成されています。装備は水槽付消防ポンプ自動車7台、消防ポンプ自動車17台、小型動力ポンプ付積載車9台、などを保有しています。

消防団活動といたしましては、1月に挙行する消防出初式に始まり、新入団員訓練、水防工法訓練、消防活動図上訓練、火災予防運動期間中には防火パレードや中継訓練、夜警などを行っています。

市が主催する花火大会等への協力や市防災訓練・百里飛行場航空機事故対処総合訓練などにも積極的に参加するなど、日々の訓練を通じて有事の際に迅速な活動が行えるように取り組んでいます。



出初式全分団一斉放水



茨城空港



平成24年度百里飛行場航空機事故対処訓練

平成24年度 全国統一防火標語

「消すまでは 出ない行かない 離れない」

4月の日本消防協会関係行事

4月12日（金）

第21回全国女性消防操法大会運営委員会

編集後記

ついこの間まで、寒いが続いていたかと思うと、今度は気温がグングン上昇して3/10には、東京で最高気温が25.3度を記録し、観測史上最も早い夏日を記録してさらには、「煙霧」と呼ばれる珍しい現象も発生したそうです。私もちょうどその時外出していて、黄砂かな？と思ったのですが自宅に帰りニュースで煙霧と知りました。

また、中国大陸から飛来する微小粒子状物質「PM2.5」の健康被害が懸念されています。これを防ぐには、普通のマスクでは対応できず以前SARSの時にも話題になりましたN95マスクでないと防げないようです。

さて、3月となりますと年度末の異動時期でもあります。日本消防協会に派遣されています研修生も今年度は私を含め7名が帰任いたします。研修中の1年間というわずかな期間ですが、多くの方々との出会いやいろいろな経験、体験ができた充実した時間を送ることが出来ました。そして、「日本消防」の編集も担当させて頂き、いたらぬことばかりで大変ご迷惑をおかけしましたが、皆様方のおかげで何とか1年間発刊することができました。ご協力に“感謝”“感謝”です。ありがとうございました。この1年間を更なるステップアップの糧に、今後も精進してまいりたいと思っています。最後になりましたが、2年が経過しました東日本大震災の被災地の日でも早い復興と皆様方のご多幸、ご健康、ご活躍を心からお祈り申し上げます。（K・S）

お詫びと訂正

日本消防2013年2月号掲載「東西南北」18ページの長崎県対馬市消防団の掲載写真等に誤りがございましたので、関係各位の方々に対しまして深くお詫び申し上げ、訂正させて頂きます。なお、お手数ですが該当ページを今号巻末に添付させて頂きますので、差し替えをお願いいたします。

購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたく考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十六巻第三号
平成二十五年三月五日印刷
平成二十五年三月十日発行

編集人 川手 晃
発行所 財 日本消防協会
東京港区虎ノ門二一九一十六
電話 〇三(350)一四八一(代)

印刷所
東京都文京区湯島三二二一十二
日本印刷株式会社
電話(383)六九七一(代)

消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)400万円を600万円に増額しました。
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※ 加入にあたり、組合員となっていたいただくために出資金が必要になります。



生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

消防互助年金

— 将来の自分の為の積立年金制度です —

消防互助年金は、消防団員・消防職員の皆さまの老後の安定と福祉の向上を図るために、(財)日本消防協会が、第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。



65歳まで積み立て可能な、公的年金の補完ができる制度です。

消防団の退団後・消防職の退職後も継続できます。

消防互助年金の説明に担当者がお伺いします。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
 - 生活協同組合全日本消防人共済会
- 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-9-16
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5
<http://www.nissho.or.jp>